

追加参考資料

平成28年度第1回

おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

(平成28年12月13日)

町広報紙への地方創生先行型事業・関連掲載記事

総合戦略策定事業

当町における地方創生…1～2P
総合戦略会議からの答申…3P

地域空店舗活用支援事業

軽トラ市スタート…4P
空店舗創業支援補助金…5P
チャレンジショップ募集…5P
みんなの休憩所…6P
まち歩き研修会…7P

移住促進事業

地域の元気再生定住促進事業…8P
町の移住・定住・子育て支援事業紹介…9～12P
浄化槽設置補助金…4P

町民バス拡充事業

バス運行の一部改正…13P

百石高等学校アクティブラーニング支援事業

高校ホームページ取組紹介…14～15P
キャリア教育文部科学大臣表彰…16P

地場産米・酒の消費 PR 推進事業

青森ワッツへ贈呈…16P
米提供農家募集…17P
地産地消…18～21P

多子出産祝金事業

助成制度紹介…22P

関連記事

地方創生先行型事業の検証結果…23～24P
特集：おいらせ軽トラ市と商店街活性化…25～28P
特集：高校生レストラン…29～34P

進めていきます

地方創生

町では、将来にわたって、活力ある地域社会を維持するとともに、町民が安心して生活していくことができるよう、国が強力に推進し支援する「地方創生」の取り組みを進めています。町の特徴や強みを生かし、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を生み出していきます。

1 町の人口減少を抑制、地域社会の維持に向けて

国は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけることを目的に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。

これを受けて町では、人口減少を抑制し、将来にわたり地域社会を維持することを目的に「おいらせ町人口ビジョン」と「おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を昨年10月に策定し、取り組みを進めています。

2 「人口ビジョン」を策定

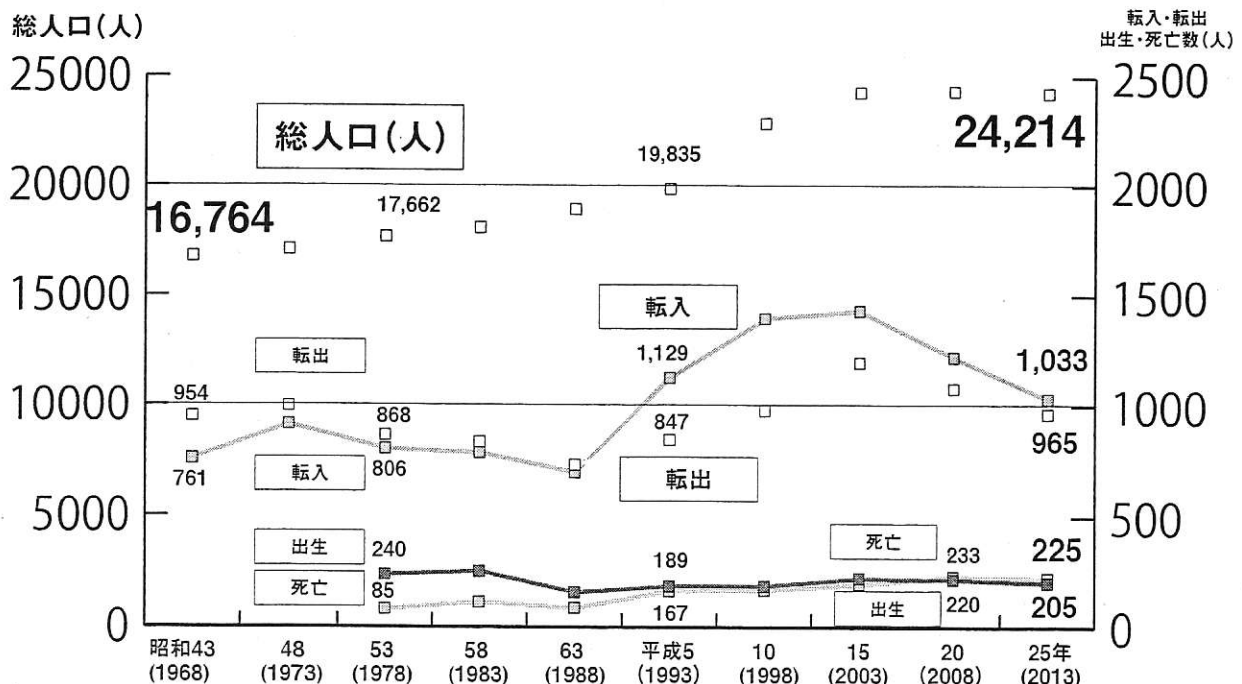
町では、「地方創生」に取り組むにあたり、現状と課題を整理するため、町人口の現状分析と将来の姿を示し、人口問題に関する基礎認識の共有を図り、取り組むべき将来の方向性を示す長期的な「おいらせ町人口ビジョン」を策定しました。

3 目指すべき将来の方向性

人口が減少すると地域内の消費活動も減少してしまうため、地域産業や雇用の場などの縮小につながり、人口流出が加速する悪循環を起すとともに日常生活や行政サービスなど地域社会の様々な基盤の維持に支障をきたすことにつながります。また、老年人口比率の増加により、地域活動における担い手不足や空き家の増加、地域文化の継承等への影響が懸念されています。

こうしたことから自然減(※1)対策では、若い世代が希望通りの出会いや結婚・出産・子育てを行い、快適に生活できる環境づくりや健康長寿化の推進、安心・安全な生活環境の確保を進めます。また、社会減(※2)対策では、若者にとって魅力のある雇用の場をつくり、若者の定住とU・I・Jターンの拡大を進めます。

※1:死亡数が出生数を上回ること
※2:転出数が転入数を上回ること



資料:青森県人口移動統計調査

〔現状分析〕

町人口の自然増減(出生と死亡の数)は、平成18年に出生数を死亡数が上回り自然減へ移行しました。また、年少・生産年齢人口(0～64歳)は減少し、老年人口(65歳以上)は増加しています。一方、社会増減(転入と転出の数)は、若年層(19～24歳)の進学・就職等に伴う転出が顕著ですが、大学等の卒業やその後の転職等(25～39歳のUターン)による転入超過により全体では社会増(微増)となっています。このことから当町は、「自然減」を「社会増」で支えている状況であり、少子高齢化が年々進行しています。

国立社会保障・人口問題研究所によると当町の人口は、今後は緩やかに減少し、2040(平成52)年には約21,200人(30年間で約3,000人減少)、老年人口比率は、36.5%(30年間で約1.7倍)になると推計されています。また、50年後の2060(平成72)年では、約17,200人まで減少(7,000人減少)すると推計されています。

4

地域経済を活性化させ、安心して暮らすための「まち・ひと・しごと総合戦略」

町では、国及び青森県の総合戦略を勘案しながら、町の最上位計画である「第1次おいらせ町総合計画」の人口減少対策、産業振興策、子育て施策等を基に新たな取り組み項目と具体的施策の数値目標等を設定し、町の特徴や強みを生かした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

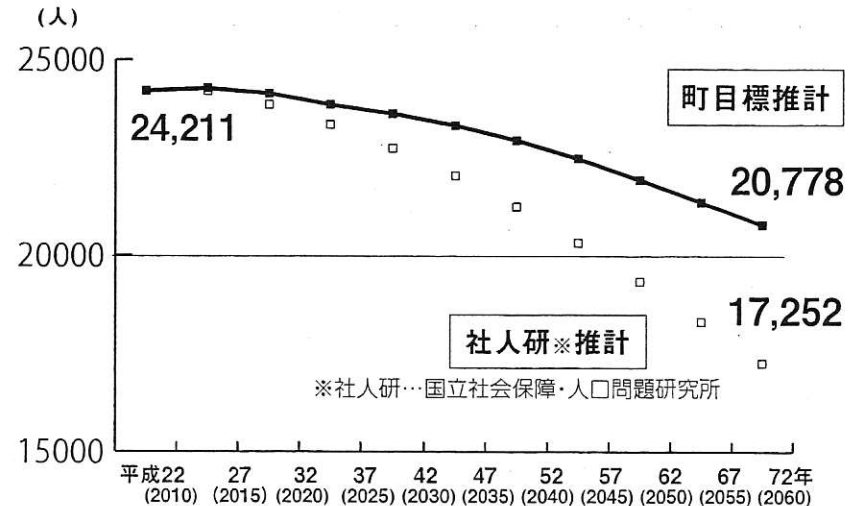
町が策定した総合戦略では、人口減少の抑制と併せて、地域経済の活力をより高め、住みやすいまちづくりを進めていくため、下記の4つの基本目標を定め、「まち」、「ひと」、「しごと」の好循環の確立を目指します。

また、総合戦略では、町民をはじめとした各種団体、企業、機関などで構成する推進組織「まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を設置し、毎年、進捗状況や成果を検証しながら、より良い成果が出せるよう事業の見直しなども行いながら進めていきます。

5

総合戦略における4つの基本目標

- ①「安定したしごと・雇用を創出する」
 - ・農業をはじめとする産業の振興
 - ・魅力のある就業機会の創出
 - ・雇用環境・人材育成の充実
- ②「新しいひとの流れをつくる」
 - ・定住促進に向けた環境整備
 - ・移住に係る情報発信の強化、多様な交流機会を増やし当町への移住の流れをつくる
- ③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
 - ・若い世代が安心して出会い、結婚、出産、子育てができ、生きがいと安らぎを持てるような生活環境の創出
- ④「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」
 - ・医療、福祉、商業等の生活サービス機能や居住の誘導によるコンパクトな市街地形成の促進と公共交通網の再構築
 - ・公共施設の適正配置と有効活用
 - ・広域連携による自立的な地域づくり
 - ・健康づくりの推進と安心・安全なまちづくり



【将来展望】
人口ビジョンでは、こういった人口減少に歯止めをかけて当町の活力を維持していくため、各種施策を進める前提での3つの仮定と目標人口を決定しました。この3つの仮定を実現できた場合、2060(平成72)年の人口は、約20,700人(社人研推計より約3,500増)を維持し、持続可能な人口構造への転換を図ることができます。

- ＜将来展望での3つの仮定＞
- (仮定1) 合計特殊出生率…一人の女性が一生の間に生む子どもの数を2020(平成32)年までに1.8人(現状1.61)へ、2040年(平成52)年までに2.07人に上昇させる。
 - (仮定2) 人口の社会増減…人口の流入を促進するとともに若年者の流出を抑えることで、現状の微増を維持する。
 - (仮定3) 平均寿命…2040(平成52)年までに男性82.82(現状77.6)歳、女性89.55(現状85.9)歳まで延伸する。(国の長期ビジョン水準)

- 地方創生先行型事業として平成27年度に行った事業
 - おいらせ町総合戦略策定事業
 - 空き家調査事業
 - 地域空き店舗活用支援事業
 - 移住促進事業
 - 農業生産基盤強化のための機械購入支援事業
 - 町民バス拡充事業
 - 百石高等学校アクティブラーニング支援事業
 - 地場産米・酒の消費PR推進事業
 - 多子出産祝金事業
- 地方創生に関する具体的な町の取り組みについては、町のホームページをご覧ください。
- 企画財政課 ☎0178-564273

地

地域の活性化に向け答申

▶▶▶ まち・ひと・しごと創生総合戦略会議答申



10月5日、おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略について、総合戦略会議（外崎充子会長）から審議結果の答申がありました。

外崎会長は「移住・定住に向けた子育て支援など多くの意見が出されています。町民の幸せや地域活性化に向けて、評価、検証、見直しを行いながら実効性のある戦略となることを期待します」と答申し、町長は、「短期間での審議は大変だったと思います。戦略会議のご意見を尊重し、人口減少対策に町を挙げて取り組んでいきたい。引き続きのご協力をお願いします」とお礼を述べました。

◀ 答申書を渡す外崎会長

赤

そばの花咲き誇る

▶▶▶ 赤そば花まつり 10/10,11



赤そば花まつり（同実行委員会主催）は、10月10日と11日の両日、観光農園アグリ^{アグリ}の里おいらせで開催されました。

赤そばの花に囲まれた会場では、町内各保育園やおいらせ胡蝶蘭舞による芸能披露、百石高校吹奏楽部の演奏や新そばのお披露目など、数多くの催しが行われました。

「もち小麦」を使った姫っこすいとんと姫もちだんごの無料振る舞いでは、長い行列ができました。振る舞いを食べた参加者からは「弾力があっておいしい」「もちなのに、食べやすい」という声が聞かれました。

◀ 新食感が好評だった「もち小麦」料理の無料振る舞い

町

の経営を見直し、行政サービス向上

▶▶▶ 行政経営推進委員会 10/13



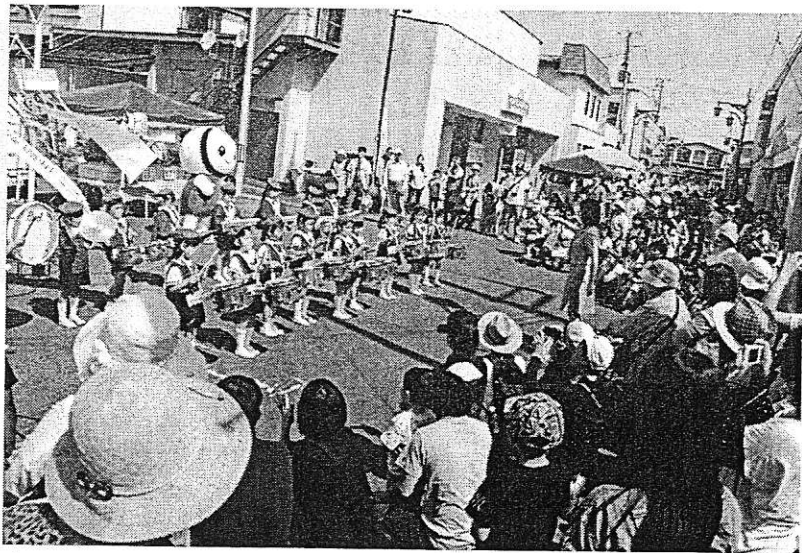
おいらせ町第1回行政経営推進委員会が、10月13日、役場庁議室で開催されました。

これは、学識経験者や公募委員などが、行政サービスの向上を目指し行政経営の改善について検討を行う会議です。

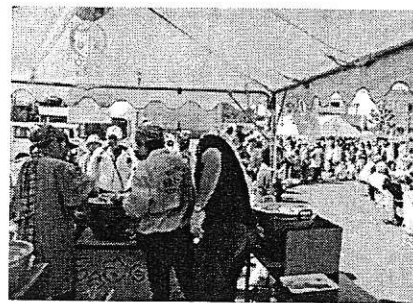
第1回は委員の委嘱や現在の取り組みについての説明などが行われました。榊克裕^{かみはつひろ}委員長は「おいらせ町は、誕生から10年目となり、これからの基準づくりをしていく時期が来ていると感じる。町がより良くなるよう、協力していきたい」と話していました。

◀ 議事を進行する榊委員長

軽トラ市 スタート



平成27年度の軽トラ市が、7月5日から百石本町商店街でスタートしました。軽トラ市は、軽トラックの荷台を店舗に見立てた産直市です。オープニングセレモニーとしてあゆみ保育園の園児たちが演奏発表を行い、「軽トラ市始まります」と宣言。へちま汁試食会やカニ・魚の網はしり販売などの催しが行われ、会場はにぎわっていました。また同日、100縁笑店街と題して会場周辺の店舗でお買い得商品の販売も行われました。軽トラ市は、12月まで毎月第1日曜日に開催予定です。



浄化槽設置に補助金を交付します

下水道が当面整備されない地区での浄化槽設置に、補助金を交付します。住宅・事業所が対象となり、借家等は対象外となります。

- 申請期限 平成27年12月21日⑩まで
- 【工事着工前に指定の申請書類を提出すること】
- 対象者 浄化槽を新たに設置する人、または単独浄化槽から合併浄化槽に切り替える人
- 主な交付要件
 - ①公共下水道事業認可区域外に設置すること
 - ②平成28年2月末日までに事業完了すること
 - ③町税などを滞納していないこと

一般住宅用区分	限度額
5人槽	529,000円
6人槽～7人槽	662,000円
8人槽以上(上限)	897,000円

事業所用区分	限度額
5人槽	352,000円
6人槽～7人槽	441,000円
8人槽～10人槽	598,000円
11人槽～15人槽	876,000円
16人槽以上(上限)	1,174,000円



園地域整備課 下水道係 ☎ 0178 56 4819

社会を明るくする運動を実施しました

上十三地区保護司会おいらせ支部と生保護女性会(吉田絹恵会長)は、7月7日、イオンモール下田にて「社会を明るくする運動」に伴う活動をしました。



保護司と更生保護女性会会員がイオンモール下田を訪れた人へ「明るい町づくりにご協力を」と呼びかけました。

これは、法務省が主唱している、犯罪や非行のない地域を築くための全国的な運動です。

町内横断旗の設置と補充をしました

町青少年育成町民会議は、6月23日、町内の横断旗の設置・補充作業をしました。



児童が安心・安全に登下校ができるように、折れて使えなくなってしまったものを取り替えたり、足りないところへ補充したりしました。

青少年育成町民会議は今回の活動以外にも様々な青少年健全育成活動を行っています。

白鳥を呼び戻す取り組み マコモロールを設置



町観光協会は、6月12日、間木堤内でマコモ植栽作業を行い、同協会をはじめ、白鳥保護監視員、ももいし白鳥を愛する会が参加しました。

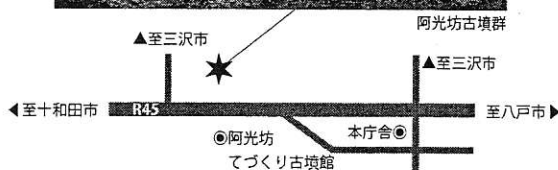
これは、餌付け自粛により飛来数が減少した白鳥を呼び戻すため、自然の餌「マコモ」を増やし、飛来数の増加につなげようといわれているものです。

今年は垂木にマコモと杉の皮でまいた1本80キロを超える重さの「マコモロール」を堤内に6本、マコモ株を30株設置しました。

阿光坊古墳群情報

阿光坊古墳群見学できます

阿光坊古墳群は古墳16基の復元工事が完了し、現地見学が可能です。阿光坊古墳群保存会によるガイド説明もできます。お気軽にお問い合わせください。



社会教育・体育課 ☎0178-564276

バスケットボールを通じてスポーツに興味を



プロバスケットボールTKbjリーグ青森ワッツ(青森スポーツクリエイション)は、5月21日、町民交流センターでバスケットボール教室無料体験会を開催しました。

町内外の小学生約20人が、ボール遊びやミニゲームを通じてバスケットの楽しさを体験し、おいらせ町出身の北向由樹選手(青森ワッツ)がプレーを特別指導しました。

北向選手は「コーチの話聞いて、楽しくやること。できるだけ多くのシュートをするのが大切」と話していました。

プレミアム商品券を販売します

- 日時 7月25日④、26日⑤ 10時～16時
上記以降は、土日祝除く9時～16時
- 場所 おいらせ町商工会本所、百石支所
- 価格 1セット5,000円(お一人様6セットまで)
(内容:500円券×12枚綴=6,000円分)
- 数量 20,000セット(無くなり次第終了)
- 対象 町民、町内の事業所に勤務している人、百石高校生

※対象確認をしますので、証明書類が必要です。
運転免許証・健康保険証・学生証・障がい手帳・社員証、就業証明書(用紙は商工会有)などをご持参ください。

- 利用可能期間 平成27年12月31日⑥

おいらせ町商工会本所 ☎0178-562511
おいらせ町商工会支所 ☎0178-562029

空き店舗で創業・開業を目指す人へ 100万円限度に経費の一部を補助

空き店舗や空き事業所を利用して操業・開業する人を支援する補助制度を創設しました。

助成を受けるには、町へ申請するなどの手続きが必要です。詳細はお問い合わせください。

商工観光課 ☎0178-564703

百石本町地区でチャレンジショップ 一定期間家賃を補助します

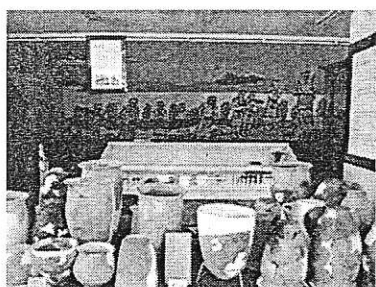
小さな拠点事業の一環で「お試し店舗」という制度を創設しました。空き店舗を活用して一定期間営業を行なえます。

自分の店舗を持ちたい、自分の好きな店を営業してみたいという人はぜひ活用ください。

詳しい内容は下記までお問い合わせください。

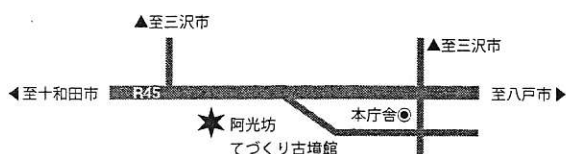
町商工会支所 ☎0178-562029

阿光坊てづくり古墳館冬休みも開館

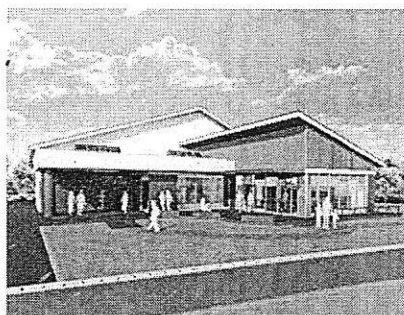


町内小中学校の冬休みにあわせ下記のとおり開館します。ぜひこの機会にご家族で見学ください。

- 開館日 12月23日(水)～1月24日(木)
- 休館日 12月28日(日)～1月4日(日)
- ※冬休み後は土日祝日のみ開館



古墳館の名称が決定しました



阿光坊古墳群のガイダンス施設の工事が順調に進んでいます。平成28年12月完成、29年3月開館をめざしています。

名称を8月から9月にかけて公募したところ、28件の応募がありました。阿光坊古墳群整備検討委員会委員に審査を依頼し、その結果を受け「おいらせ阿光坊古墳館」に決定しました。名づけ親は藤ヶ森の北向くみ子さんほか1名。平成29年3月のオープニングセレモニーで表彰予定です。

名称は決まりましたが、完成までは時間があります。ぜひ「阿光坊てづくり古墳館」へも足を運んでください。

償却資産の申告をお願いします

固定資産税のうち「償却資産」の所有者は、地方税法に基づき、毎年1月1日(賦課期日)現在所有する「償却資産」の申告が必要です。

- 償却資産とは 土地、家屋以外の事業の用に供することができる資産で、その減価償却費が法人税法または所得税法の規定による所得の計算上、損金または必要な経費に算入されるものをいいます。
- 対象者 平成28年1月1日現在、町内に償却資産を所有する法人や個人事業者
- 申告書類 町で把握している対象者には、書類を12月中に送付します。届かない場合はご連絡ください。また、今年度初めて申告される人は、ご連絡いただければ郵送します。
- 提出方法 直接税務課資産税係へ持参、郵送または電子申告(エルタックス)により提出ください。
- 提出期限 平成28年2月1日(日)

固税務課 ☎ 0178-56-4704

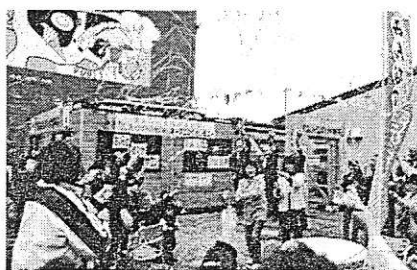
利用料無料の交流の場オープン

11月1日、おいらせ街なかサロン「みんなの休憩所」がオープンし、14日にオープン記念イベントが開催されました。

みんなの休憩所は、地域をより便利にし、商店街の活性化と、企業を志す人への支援が目的の施設です。趣味の作品展示や新規出店を考える人のオリジナル商品販売などができます。

オープニングイベントでは、参加者全員でクラッカーを鳴らし、おいらせへっちょこ汁と玄米餅入りおしるこがふるまわれました。

固町商工会本所 ☎ 0178-56-2511
支所 ☎ 0178-52-2029



シリーズ連載 (第2期)

地域発見

ちいきはっけん



弘前路地裏探偵団 (弘前市) とまち歩きを考える

地域の宝の活かし方

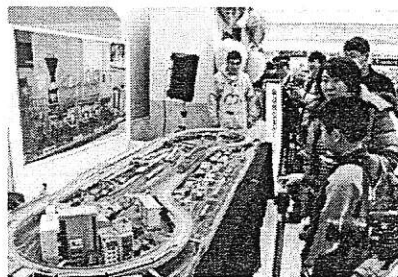
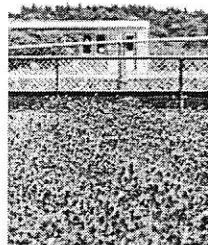
8月26日、第1回おいらせ町まち歩き研修会が向山集会所で開催され、向山町内会および向山駅愛好会のメンバーのほか、昨年度のまちあるき講座の受講生が集まり、弘前路地裏探偵団の鹿田智嵩団長から、おいらせ町の「まち歩き」観光についてを学んだ。

鹿田団長は「もともと弘前市では、桜が咲く5日間以外の観光がなく、観光手段を模索し、自分たちの生活空間がまち歩きに活かされると気づきました」と、立ち上げ当時の経緯を語り、実際に向山駅を使ったまち歩きのアイディアなどを発表した。

講義を受けた中村さんは「私たちにとって見慣れている日常が、観光客にとって新鮮なこともある。町内で歴史を知る人を集めてみたい」と意気込みを語った。

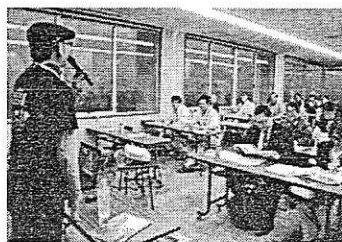
向山駅愛好会

町の活性化のため、無人駅にこいの場を作ろうと、平成24年11月に向山駅ミュージアムを開館。国鉄時代の貴重な展示やNゲージの特製ジオラマが地域の注目を集めている。10月25日 @ 10時より青い森鉄道「向山駅」にて「おらんとの駅祭り」を開催予定。



弘前路地裏探偵団

弘前ならではの文化の調査と観光者向けのガイドを行っている。『路地裏にこそ街の文化の花が咲く』を合言葉に、夜な夜な弘前の迷宮案内にいそむ。鹿田団長は「迷子になりそうな市街地が、弘前独自のまち歩きにつながった」と話す。



題字 / 松林精楽氏

住宅を新築する子育て世帯などへ、助成金を交付

圏企画財政課 ☎ 0178 56 4273

●対象地域

(小学校児童数が著しく減少している地区)

①甲洋小学校区

(深沢平、内山平、向平、一川目、深沢、二川目)

②下田小学校区

(西下川原、明土、丈ノ端、萱ノ前、南下田、上谷地、赤田前、館越、上水下、三九郎、阿光坊、神明前、新敷、洗平、瓢、西後谷地の一部、中谷地、向山の一部、上川原の一部)

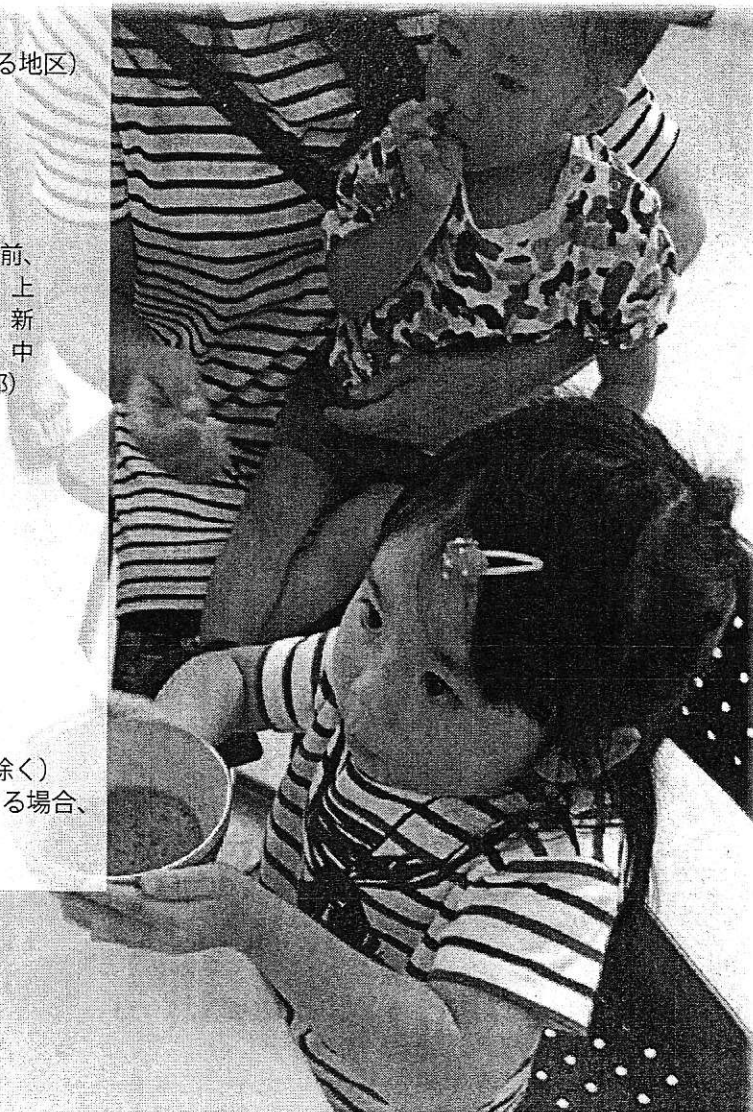
●助成金額

(1) 住宅取得等助成金

- ①新築住宅 上限 150 万円
- ②中古住宅 上限 100 万円
- ③戸建住宅の賃借
 - 12 カ月経過後→ 12 万円、
 - 24 カ月経過後→ 12 万円、
 - 36 カ月経過後→ 12 万円
 - 合計 36 万円

(2) 子育て世帯助成金

(戸建住宅を賃借する世帯を除く)
中学生以下の子どもを扶養する場合、
子ども 1 人当たり 20 万円



●助成対象者 (下記全てに該当する世帯の代表者)

- (1) 平成 26 年 4 月 1 日以降に、対象地域に住宅を新築、購入または戸建住宅(※1)を賃借した若者世帯(※2)、または子育て世帯(※3)
- (2) 転入世帯(※4)または転居世帯(※5)で、上記住宅に 10 年以上定住する世帯。
ただし、戸建住宅を賃借する場合は、1 年以上居住する世帯。
- (3) 地域の活性化の推進に協力する意思を有する世帯
- (4) 町税等滞納がない世帯

- ※1 戸建住宅……一戸建て住宅で、現に人が使用していない建築物(空家)。
- ※2 若者世帯……申請日において、夫婦いずれも 40 歳未満である世帯。
- ※3 子育て世帯……申請日において、中学生以下の子どもを扶養する世帯または妊婦がいる世帯。
- ※4 転入世帯……申請日において、町内に転入して 1 年未満であり、転入した日の前日まで連続して 3 年以上町外に居住していた世帯。
- ※5 転居世帯……転居した日の前日まで連続して 1 年以上、町内の助成対象地域以外の地域に居住していた世帯。

おいらせ町の「移住・定住・子育て支援事業」の紹介①

～笑顔あふれる元気な町を目指して～

移住・定住・子育て支援により、持続的な町の発展を図ります

町では、子どもが心身ともに健やかに成長できるように子育て支援事業の充実を図り、地域ぐるみで子育てしやすい環境づくりに努めています。

同時に、人口を維持・増加させ、地域の活力を高めるために「住んでみたいまち、住みやすいまち」を目指して、生活環境整備など移住・定住を促進する事業に取り組んでいます。

改めて制度の概要を町民の皆さんにお知らせしますので、町外にお住いの親族や知人・友人などに制度を紹介していただき、1人でも多くの方が当町に住んでいただけるようPRなどにご協力をお願いします。

移住・定住促進事業

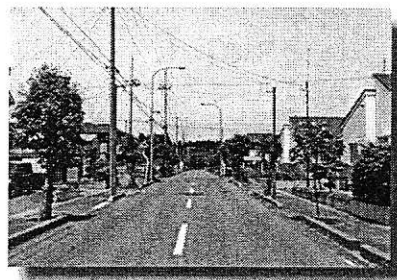
町独自

洋光台 団地定住 促進事業

快適な住環境を整備した「おいらせパークタウン洋光台」の宅地を分譲しています。土地購入から10年以内に住宅を新築した人に土地代金の一部を助成します。(通常：坪あたり約4万円/被災者：坪あたり約6万円)

また、洋光台団地分譲地の購入者を紹介した個人に奨励金を交付します。(1区画につき10万円)

町企画財政課 ☎0178664273



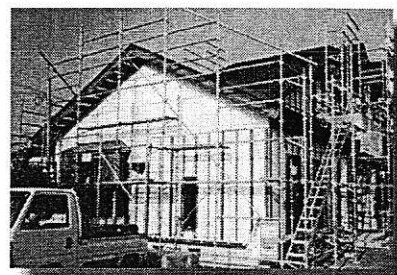
町独自

地域の元気 再生定住 促進事業

下田小学区または甲洋小学区に転入などし、住宅を新築または取得する場合、一定の条件を満たすことで定住促進助成金を交付します。

補助金額は経費総額の10%です。(新築上限150万円、中古住宅上限100万円)

町企画財政課 ☎0178664273

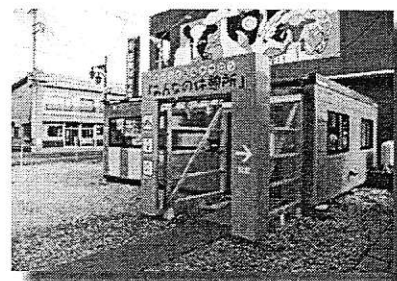


町独自

地域空き 店舗活用 支援事業

空き店舗や空き事業所を活用し開業する事業者を支援するため、店舗改装費、施設整備費などの2分の1を助成します。(上限100万円)

町商工観光課 ☎0178664703



町独自

ハートピア 助成事業

美化活動、自然保護活動、文化活動などまちづくりのために自主的に活動する10人以上で構成される団体に活動経費の一部を助成します。(上限20万円)

町まちづくり防災課 ☎0178662131

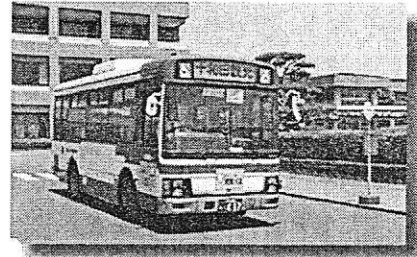


町独自

町民バス
運行事業

町民の交通手段を確保するために「町民バス」
を運行しています。

企画画財政課 ☎017864273

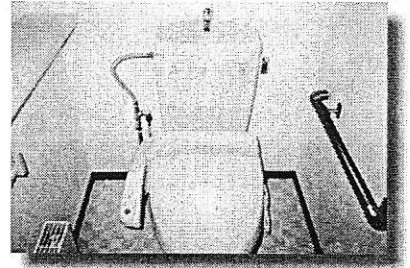


町独自

浄化槽設置
助成制度

下水道区域外の合併浄化槽の設置費用の一部
を助成しています。

地域整備課 ☎017864819

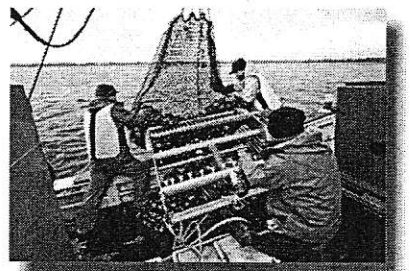


町独自

漁業者
担い手
育成事業

新規漁業就業者の漁船購入や免許取得費用の一
部を助成しています。また、担い手となる雇用者
に支払う賃金の一部を助成し、新規就業者の確保・
育成を図っています。

農林水産課 ☎017864279



青年就農
給付金事業

新規就農者の経営安定化を支援するため給付
金を支給し、就農後の定着を図っています。

農林水産課 ☎017864279



子育て支援事業

町独自

子どもの
医療費無料

中学生以下の子どもの医療費は原則無料です。
なお、県内医療機関を受診した場合、窓口での一
時負担も不要です。

町民課 子育て支援室
☎017864259

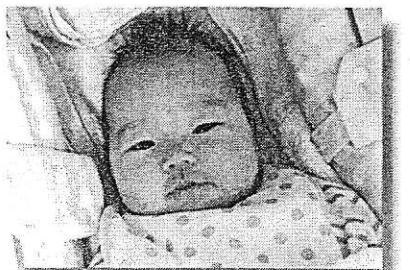


町独自

多子出産
祝金の支給

第2子以降の子どもが生まれたご家庭に出産祝金
を支給します。支給額は第2子5万円、第3子以降
10万円です。ただし、第2子以降の出生の日までに、
①父母のどちらかが1年以上（自己所有住宅に転入
した場合は1年未満でも対象）住民登録をしている、
②父母ともに町税等を滞納していない、などを満た
している人が対象です。

町民課 子育て支援室
☎017864259



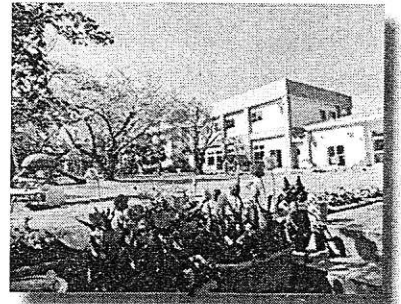
町独自

保育料
軽減事業

保育料の上限を3万円に設定し、子育て世帯の負担軽減を図っています。

また、生計を一にする18歳未満の子どもが3人以上いる場合で、3人目以降の子どもが新制度に移行する幼稚園、保育所、認定こども園などを利用した場合の保育料は無料です。

固町民課 子育て支援室
☎0178⑤⑥4259



特別保育
事業

延長保育、休日保育、一時預かり、地域子育て支援センター、病後児保育を町委託事業として実施しています。

固町民課 子育て支援室
☎0178⑤⑥4259



町独自

児童館・
放課後児童
クラブ等の
利用料無料

全5小学校区で、放課後児童クラブまたは放課後子ども教室が利用でき、利用料は原則無料です。実施場所は児童館、民間保育園の専用施設、小学校の空き教室です。

固町民課 子育て支援室
☎0178⑤⑥4259



幼稚園
就園補助
事業

幼稚園（新制度移行施設を除く）に就園する園児の保護者に対して、所得状況に応じて保育料等を補助しています。

さらに、第3子以降の就園に対して、保育料等を補助しています。

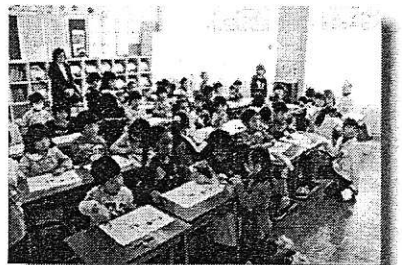
固学務課 ☎0178⑤⑥4258



就学援助
事業

経済的理由によって就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、必要な費用の一部を援助しています。

固学務課 ☎0178⑤⑥4258

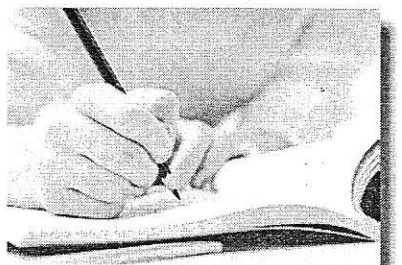


町独自

奨学金制度

優れた資質をもちながら経済的な理由により就学が困難な人に奨学金を貸与します。月額、大学・大学院4万円、短期大学・高等専門学校・専門学校3万円、高等学校1万円。卒業の月の1年後から貸与期間の2倍の期間内に全額償還することになります。（無利子）

固学務課 ☎0178⑤⑥4258



保健事業

町独自

**いきいき
健活ポイント
事業**

健診を受け、いろいろな健康づくり事業に参加することでポイントが貯まり、ポイントカードがいっぱいになったら1,000円分の商品券と交換となり、楽しみながら健康づくりをすることができます。

☎環境保健課 健康長寿推進室
☎0178⑥4551



町独自

**健康診査・
がん検診**

すべての基本健診（さわやか成人健診・国保特定健診・後期高齢者健診）を無料で受けることができます。

※がん検診は自己負担あり（ただし住民税非課税世帯は無料）

※40歳の無料券の発行

☎環境保健課 健康長寿推進室
☎0178⑥4551



町独自

**母子保健
事業**

妊産婦・乳幼児の健康診査のほかに町独自で実施している健康相談・母乳相談・そしゃく相談、2歳6か月児健診、パパママ歯周病検診、股関節脱臼検診、フッ素塗布事業等の母子保健事業が充実しています。

☎環境保健課 健康長寿推進室
☎0178⑥4551

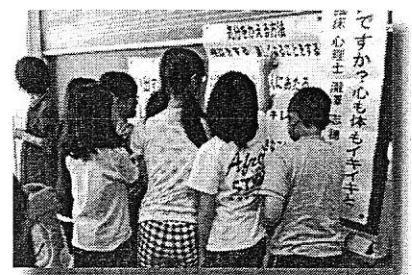


町独自

**学校保健
事業**

健全な児童育成に向けて健康講話や紙芝居の読み聞かせなどの小児生活習慣病予防事業のほか、各学校での健康教室（年42回）を実施しています。

☎環境保健課 健康長寿推進室
☎0178⑥4551



有料広告欄



農地（田・畑）の管理請負ます。

（田畑の草刈り、トラクターロータリーかけ）

土地の状態、場所の条件、作業の内容によって請負額が変わります。

機械がない。機械が壊れた。高齢で無理など。

・立木の伐採、枝剪定、樹木の移植、造園土木作業も承ります。



研創ビジネス(有)



〒039-2141 上北郡おいらせ町明土11(本村)

サイン製作所 039-2129 おいらせ町中平下長根山1-53

TEL・FAX 0178-56-2814

TEL・FAX 0178-32-0185

催し

平成28年度新入学児童の就学時健康診断

町教育委員会では、新入学予定児童を対象に就学時健康診断を実施します。対象者には、郵送で通知してあります。日程や場所を確認し、当日会場にお越しください。

通知内容および会場案内図を町ホームページに掲載してあります。

町教育委員会学務課
☎0178-64258

記帳・帳簿保存制度
記帳説明会

平成26年1月から事業所得などがある全ての人は、記帳と帳簿書類の保存が必要となりました。白色申告で営業所得・農業所得または不動産所得のある人を対象に説明会を開催します。

●日時 11月5日(金)10時半
～営業所得・不動産所得
13時半～農業所得
●場所 本庁舎2階201
会議室

☎十和田税務署 個人課税

第一部門
☎0176-3151

県産肉を使った無料料理教室を開催

●日時 10月31日(土) 10時～13時

●場所 林料理学校 八戸市根城5丁目14-24

●持ち物 エプロン・三角巾・筆記用具

●参加方法 往復はがきに住所・氏名(2人まで)・年齢・電話番号を記入し、10月20日までに〒030-0113 青森市第二問屋町3-5-25 青森県食肉事業協同組合連合会まで応募ください(多数の場合抽選)。

●県食肉事業協同組合
☎017-729-8078

第56回青森県精神保健福祉大会

入場無料、事前申込み不要
●日時 10月24日(土) 12時半～15時半

●場所 総合福祉会館(八戸市根城8-8-155)
●内容 大会テーマ「子どもたちのこころを考える」

①精神保健福祉事業功労者の表彰

②講演「現場を変えるいじめの科学」

講師 大阪大学大学院連合小児発達学研究所
和久田学特任講師

③講演「学校で自殺が起こるとき」予防とポストベ
ンションについて」

講師 浜松市精神保健福祉センター二宮貴至所長

●町民バスの運行が一部改正になります。
10月1日改正

●変更点
・東線1便の起点
・高校↓北部方面への便
(18時以降)

・北線の時刻
・南線の始発時刻と起点
・南線5便のルート

別紙でご確認ください。

●企画財政課
☎0178-64273

家族で体験するイベントと講演会を開催

①カヤック体験

『カヌーABC』

●日時 10月17日(土)

午前の部10時～13時/午後
の部11時40分～15時

●場所 サーマンパーク

●参加費 小学生千五百円
中学生二千円

●講師 くりこま高原自然
学校 塚原氏

●持ちもの むれでもよい
防寒具、服、靴、着替え

●申込期限 10月10日(土)

②家族の食事について講習
会「ありがとうのご飯」

●日時 第1回10月10日(土)
10時～/第2回24日(土)、第
3回31日(土)予定

●場所 北公民館

●参加費 五百円(託児あり)

●持ちもの お箸
講師 Tuboカフェ
高森氏

●Joyrase外井
☎080-6099-3704

百石高等学校が
授業公開をします

どなたでも参加できます。
●日時 11月13日(金)10時55
分～12時45分

ただし受付は12時まで

●場所 百石高等学校

●百石高等学校教務部
☎0178-2088

町内で消火器点検商法が発生しました

Aさん宅(町内の一人暮らし高齢者)に男性が消火器の点検に来た。Aさんが消火器を差し出すと『期限が切れている、交換すれば10年は持ちます』などと言い消火器を交換し、1万5千円を請求した。代金を払うと一切の書面を交付せず立ち去った。交換した消火器の有効期限は10年未満のものであった。

- ・身分証明書の提示を求め、契約業者または委託業者であるか確認しましょう。
- ・契約業者がある場合は、連絡をして点検実施の有無を確認しましょう。
- ・「家族が知っているんだろう」などと憶測で判断せず、周囲に確認しましょう。
- ・「詐欺かもしれない」「だまされた!」などの情報がありましたら、下記へご連絡ください。

●商工観光課 ☎0178-64703
三沢警察署生活安全課 ☎0176-3145
八戸市消費生活センター ☎0178-9216

- ▶ 校長あいさつ
- ▶ 保護者のみなさまへ
- ▶ **おいらせ町教育支援**
- ▶ 年間・月間行事予定
- ▶ よくあるご質問

- ▶ 特色・学校概要
- ▶ 普通科
- ▶ 食物調理科
- ▶ キャリア教育
- ▶ アクティブラーニング
- ▶ 進路情報
- ▶ 学校行事
- ▶ 生徒会活動
- ▶ 部活動
- ▶ P T A 活動
- ▶ 学校評価
- ▶ いじめ防止基本方針
- ▶ 証明書発行/教育実習

青森県立百石高等学校
〒039-2223 青森県上北郡おいらせ町苗平谷地46番地
TEL 0178-52-2088
FAX 0178-52-8315

おいらせ町教育支援

おいらせ町から、本校の教育支援のため、補助金の交付を受けることになりました。

支援名…青森県立百石高等学校支援事業費補助金

日付…平成27年10月1日付

項目

- (1) アクティブラーニング支援
- (2) スキルアップ支援
- (3) オープンキャンパス参加支援
- (4) 新聞購読支援
- (5) その他

経過報告 (H28.4.27) 平成28年度の支援が決まりました

平成28年度も27年度に引き続き、おいらせ町から教育支援をいただくことが決定しました。

スキルアップ支援については以下のとおりです。

【支援対象検定】

- (1) 漢字検定
- (2) 英語検定
- (3) 数学検定
- (4) 商業科目に関わる各種検定
- (5) その他

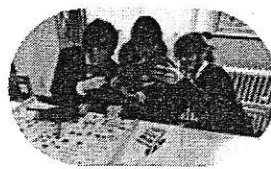
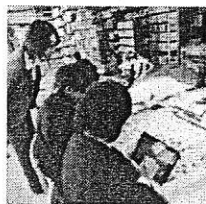
【支援額】

原則として各検定料の半額。ただし、英検準2級以上は全額とする。

なお、受験者増加により、支援金が不足した場合は、不足が見込まれた段階で支援を終了します。

経過報告 (H28.3.25) 本校にタブレットが導入されました。

おいらせ町から教育支援をいただき、本校にもタブレット型端末が10台導入されました。ご支援ありがとうございました。まず、タブレットに関する校内研修会を開き、教員が基本的な操作について学びました。その後、さっそく生徒が調べ学習で使用を開始しましたが、どうやら生徒の方が教員より飲み込みが早いようです。来年度に向けて、各教科での活用方法を模索していきたいと思えます。



経過報告 (H28.1.15)

おいらせ町からの教育支援について、その後の経過を報告します。

この支援事業は、町が地元高校へ支援することにより、学力向上による人材育成、イメージアップによる生徒の確保、教育費の負担軽減を目的とするものです。この支援事業は5年間継続の予定で、詳細は年度毎に町が決定します。

(1) アクティブラーニング支援について

調べ学習、発表などで使用するため、生徒用タブレットパソコン10台、プロジェクター1台などを購入しました。これにより、教室でも手軽にタブレットパソコンが使用でき、調べ学習その他の魅力的な授業が可能になります。

(2) スキルアップ支援について

平成27年度は英語検定、漢字検定、数学検定の受験料を全額補助します。対象者は、資格取得を希望する本校生徒全員です。受験予定者には講習や模擬試験を実施して合格に向けた支援を行っています。これにより、資格取得や学習に対する生徒の興味関心・意欲が高まっています。

28年度は対象検定を増やし、校内ルールを作って支援したいと考えています。

お知らせ

- ▶ 校長あいさつ
- ▶ 保護者のみなさまへ
- ▶ おいらせ町教育支援
- ▶ 年間・月間行事予定
- ▶ よくあるご質問

学校紹介

- ▶ 特色・学校概要
- ▶ 普通科
- ▶ 食物調理科
- ▶ キャリア教育
- ▶ アクティブラーニング
- ▶ 進路情報
- ▶ 学校行事
- ▶ 生徒会活動
- ▶ 部活動
- ▶ PTA活動
- ▶ 学校評価
- ▶ いじめ防止基本方針
- ▶ 証明書発行/教育実習

お問い合わせ

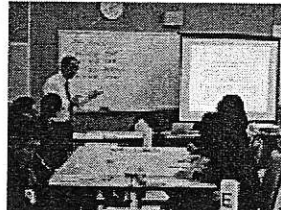
青森県立百石高等学校
 〒039-2223 青森県上北郡おいらせ町苗平谷地46番地
 TEL 0178-52-2088
 FAX 0178-52-8315

アクティブラーニング

本校では授業改善及びキャリア教育の一環として平成26年度よりアクティブラーニングに関する取り組みを様々な行っています。従来の高校の授業は、「先生は説明して黒板に書き、生徒は黙って聞いてノートを取る」という一斉講義型がほとんどでした。それに対し、アクティブラーニング型授業は、生徒が問題や課題を主体的に考え、意見を交換したり教え合ったりして協働的に学び合う学習スタイルです。また、答えのない問題にも取り組み、意見を交換し合ってお互いが納得できる結論を導き出す活動も含まれます。このことによって、社会で本当に必要な能力である、考える力や、探究する力、コミュニケーションをとる力、協働する力等が身に付きます。今年度も授業研修週間や外部講師を招いた研修会等、様々な取り組みを実施しています。その取り組みの状況と成果の一部を紹介します。



アクティブラーニング型授業の様子



産業能率大学 小林昭文先生を招いての研修会



アクティブラーニング通信

- 第1号
- 第2号
- 第3号
- 第4号
- 第5号
- 第6号

「産業と教育」12月号に食物調理科のアクティブラーニングの取り組みが紹介されました。
 (紙面はこちらからご覧いただけます。)

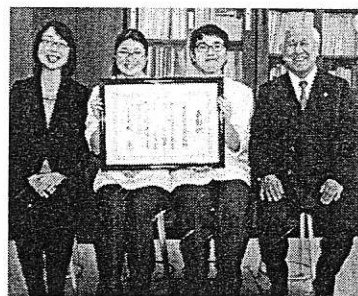
[▲ページトップに戻る](#)

百石高等学校が文部科学大臣表彰

荒川由美子校長は「食物調理科の取り組みが学校全体のほげみになる。これからも地域に出て体験することで学んでほしい」、町長は「さらに充実し、活きた教育と一緒に頑張りたい」と話していました。

12月18日、百石高等学校は、平成27年度キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受けたことを町長に報告しました。

百石高等学校は、これまで町成人式への料理提供、10周年記念のおいらっせ十種野菜カレー開発をはじめ数多くの取り組みを実践しており、地域社会と連携した体験教育を実施している功績が認められ、このたび大臣表彰を受賞しました。



▲左から荒川校長、鈴木凛さん、奥村太一さん、町長



◀同日、成人式でふるまわれる特製料理の試食会が実施されました。

生徒たちが新成人のために考案したメニューを成人式の関係者が試食。食事後にアンケートをとり、成人式本番へ向けて備えていました。

バスケットボール

おいらせ町と町体育協会が 青森ワッツを激励



ドライブを決める
北向選手



贈呈式の様子

12月26日に八戸市東体育館で開催された「青森ワッツ対滋賀レイクスターズ」戦のオープニングセレモニーの後、三村町長と平野敏彦体育協会会長が各チームの代表選手へ、地元純米酒「穂ノ泉」とおいらせ町でとれた新米「まっしぐら」が一緒になった「おいらせの恵みセット」を手渡し、激励とともに町の特産品をPRしました。

TKbjリーグ青森ワッツは、町出身の北向由樹選手が所属するプロバスケットボールチームです。この日の北向選手はドライブで第2Qの初得点を決め、1315人の観客を魅了していました。

青森ワッツは、八戸市東体育館で2月13日と14日に、前ヘッドコーチ棟方公寿氏が指導する信州ブレイブオリアーズと対戦予定です。

インフォメーション

各種行事案内

北部出張所でも 各種証明書を 発行しています

- 住民票、町名変更の証明書
- 戸籍謄本、戸籍の附票
- 印鑑証明書
 - ※印鑑登録・廃止・再発行の手続きはできません
- 所得証明書・課税所得証明書
- 評価証明書など
資産に関する証明書
- 納税証明書（車検用含む）
- 粗大ごみ処理券
- 健診無料券など

北部出張所（北公民館内）



※住所変更、戸籍届出、保険証交付などは取り扱いできません。

※運転免許証、保険証など本人確認ができる公的書類を持参ください。手続きによっては説明や追加書類が必要になります。

☎北部出張所 ☎0176⑤1208
青葉二丁目50番地1395

募集・催し

地元純米酒造りのための 米の提供者を募集

おいらせ農酒会は、4月に完成した地元純米酒「穂の泉」に続いて、桃川株式会社との協力ののもと、今年も地元純米酒造りに挑戦します。原料となる米を提供いただける、米作りと酒をこよなく愛する町内の農士を募集します。希望者多数の場合、説明会を開催します。

- 募集期限 9月10日④
 - 応募方法 氏名・連絡先電話番号・住所を左記に連絡ください。
 - 品種 まつしぐら
 - 数量 参加者数で増減
- ☎桃川株式会社
☎0178⑤2241

地域活性化事業を応援 町地域振興協議会助成事業

町内に活動の本拠を置く公共的団体などを対象に、地域活性化活動を目的とする事業に対して、上限20万円の助成金（助成率10/10）申請を受付します。

- 申請期限 9月30日④
- 対象事業
 - ①官民一体となった各種記念事業やイベント事業
 - ②産業情報とまちづくり情報の収集・発信事業
 - ③地域の振興、発展等のための事業
 - ④①③を複合する事業
- 対象経費
助成対象事業の実施に直接要する経費で、次に掲げる経費を除くものとする。
 - ①団体スタッフ等人件費及び施設の管理費等の経常的経費

②助成対象事業以外の事業に係る経費との区分を客観的に証することができない経費

③債務の償却又は損失の補てんに充当する経費

④前払費用、基金その他の年度を超えて費消される経費

⑤事業目的や社会通念に照らして必要性が乏しいと協議会理事長が判断する経費

●助成の決定 10月30日④までに決定し、申請者へ通知します。

●その他 申請様式など詳細はお問い合わせください。

●申請先・町地域振興協議会事務局 役場企画財政課
☎0178⑤4273

まちづくり活動を支援します

おいらせ町まちづくり推進委員会はまちづくり活動

を支援します。

①まちづくり団体支援

●対象者 まちづくりのための新規イベント等を実施する町内団体（他の補助等を受けていないこと）

●助成率 総事業費の50%（限度額1件10万円）

※過去の実績・演劇によるまちづくりを実施する団体との交流事業、ライブコンサートによるまちづくり事業、子育て支援団体のイベント事業

②人材育成研修支援

●対象者
町民または町内に勤務する者で、目的が明確な研修計画があり、原則として概ね20歳以上の人。

保護者同伴の場合は、小学4年生以上の人も可。

●対象内容
①まちづくり、地域活性化

衣類のポケットに入れた ライターに注意

衣類が焼けたなどの事故が発生しています。使用後は、火が完全に消えていることを確認する。着火レバーとノズルネジの間に挟まったごみ等の異物を取り除くなど気をつけましょう。

インターネットでの旅行申込み はよく確認を

航空券が届かない、旅行会社と連絡がとれなくなったなどのトラブルが発生しています。旅行業登録の有無、問い合わせ体制、契約内容をよく確認しましょう。

☎八戸市消費生活センター ☎0178-43-9216

特集 地産地消への道

「おいらせ町だけでしか味わえない」「ご当地の味」



今月の表紙



桃川の酒蔵で酒造りに挑戦する
おいらせ農酒会の田中啓文さん
(一川目)

現在、全国各地の農業や産業に地域創生の取り組みが求められています。おいらせ町も例外ではなく、地域の活力が必要とされています。そのなかでも町の活性化のキーワードとして「地産地消」があげられます。

4月に発表された、町内の米農家有志による、町産米100%の純米酒「穂の泉」^{ほのいずみ}。その酒造りの始まりは、ある米農家の一言でした。

「自分たちが育てたコメを、お酒にして飲んでみたい」

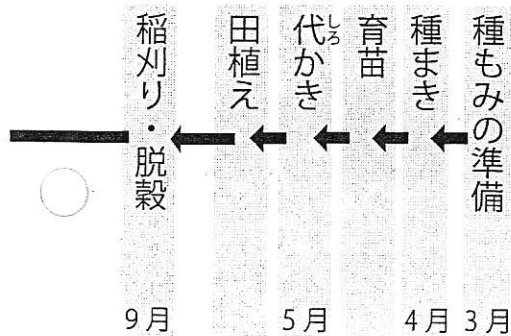
——その夢は、いつしか、おいらせ町に広がっていったのです。



5月、おいらせ町にも田植えの季節がやってきました。
田植え作業をする川口勉さん。

地元純米酒 「穂の泉」^{ほいずみ} ができきるまで

おいらせ町の米



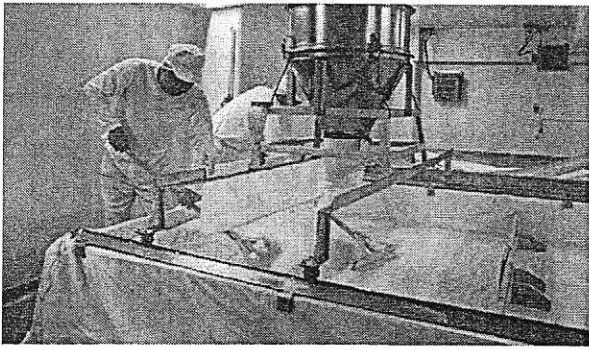
平成27年4月17日、おいらせ町誕生から10周年の節目の年に、町内の米農家有志の集い「おいらせ農酒会」が地元純米酒「穂の泉」の完成を発表しました。

原材料となる米や仕込み水はすべて、おいらせ町産。さらに醸造は地元酒蔵「桃川株式会社」の協力を得て、桃川の蔵人と米農家の共同作業により作り上げたという、真正銘の「おいらせ町の地元酒」です。

おいらせ町の水

仕込み水は、奥入瀬川水系の水を使用しています。毎年4月に開催される奥入瀬川クリーン運動。町民一人ひとりが、ボランティアの清掃活動を行うことで、奥入瀬川の清らかさが保たれています。写真は三田地区の河川敷清掃活動。朝早くから、たくさんの方がゴミ拾いに参加しています。

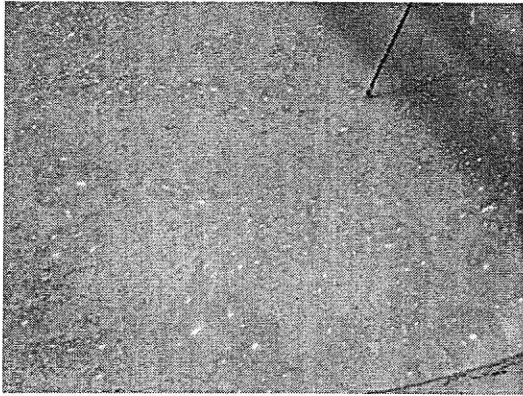




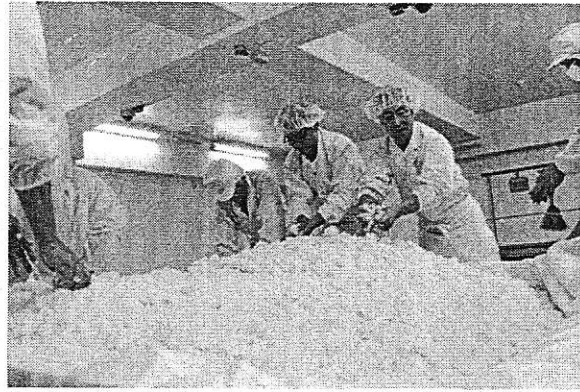
こじの引き込み作業。



4月の完成に向け、仕込みは2月から行われました。

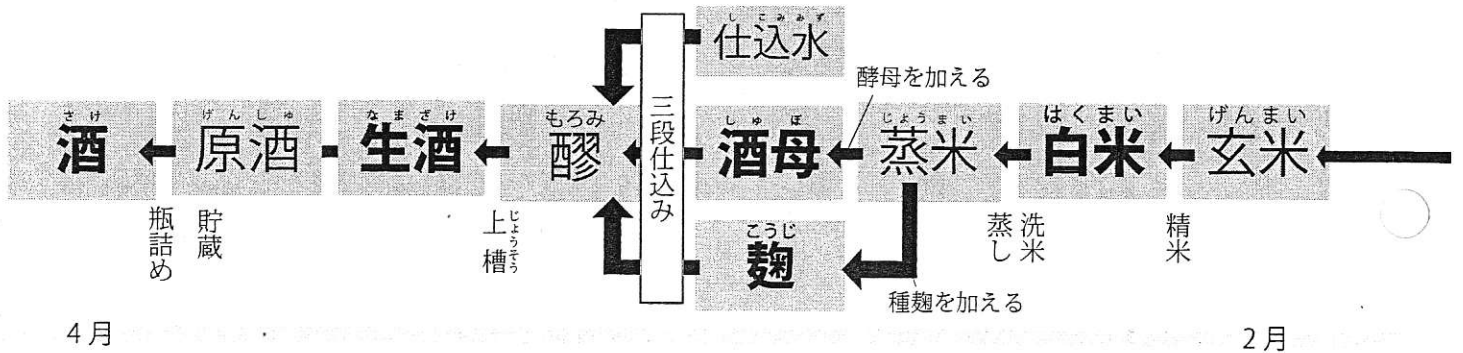


仕込み7日目の酒母。酵母のはたらきで次々と泡が生まれています。



酒蔵桃川での、手作業によるこじの切り返し。外は吹雪でしたが、蔵内の温度は32度近くでした。

おいらせ町の酒蔵



おいらせ町の書



左の写真は3月に町内で開催された日本習字上十三峰友会展に展示の、川口さんの作品です。

酒瓶のラベルは、川口暁洋（藤ヶ森／雅号・景風）さんによる書です。





▲完成披露発表会に出席された、おいらせ農酒会の皆さん。中央は斉藤為雄さん、向かって右隣が三村町長。

地産地消を実現した「地元への思い」

自分たちの酒が出来て感無量
おいらせ農酒会 代表世話役
川口勉さん
一度でいいから、自分たちの米で作った酒を飲みたいというのが夢でした。私たちの地元は桃川さんがあったからこそ夢をかなえることができたと感じています。

「穂の泉」名づけ親
斉藤為雄さん(掘切川)
応募した名称が採用された
と知ってびっくりしました。名前の由来は、家族が農作業で働いていた時の思い出の情景です。大変で地道な努力が実り、大地の恵みが奥入瀬川と共に水のようにあふれ出します。そんなイメージを「泉」にこめました。ネーミングを自分でしたお酒は、おいしく感じます。



「穂の泉」は県産米「まっしぐら」を使用。精米歩合は65%。米のうまみを出しています。工程で火入れをしていない「生」のお酒です。町内の酒販店11店で扱っています。



三村町長は新酒完成披露会で、「地方創生につながる、大変素晴らしい取り組みだと思います。おいらせ町を愛する気持ちで、飲んでいただきたい。」と話しました。

地元にあるものを最大限に活用した、自分たちの地元「おいらせ町」にこだわった取り組み。おいらせ町であることを誇りに思う町民の思いが、『地産地消』という形を生み出したのではないのでしょうか。

子育て支援情報

子育て応援商品券を支給

町内の子育て世帯の生活応援と地元の消費喚起を目的として、中学生以下の児童向けに子育て応援商品券を給付します。

●給付対象児童

平成27年8月31日までに町に住民登録の届出をした児童であって、平成12年4月2日以降に生まれた児童（中学生以下の子ども）

※ただし、8月31日以前の出生で、届出が9月1日以降になった場合は対象とします。

●給付対象者

給付対象児童と同一世帯にある者で、現に給付対象児童の生計を維持し又は監護し若しくは養育している者

●支給額

支給対象児童一人につき、商品券5,000円分



●給付方法

10月下旬～11月上旬に、支給対象者へ引換券を郵送します。

商品券との交換日時および場所等、詳細は、引換券の発送通知にてお知らせします。

多子（第2子以降の子） 出産祝金を支給



子どもの健やかな成長と町の人口増加を目的に、平成27年4月1日以降の第2子以降のお子様の出産に対し、多子出産祝金を支給します。

●支給対象者

第2子以降の子を出産した母・配偶者・養育者で、次の要件にすべてあてはまる人。

- ① 第2子以降の子が、現に町民であること。
- ② 母または配偶者のいずれかが、町に1年以上居住しているか、町内の自己所有住宅に居住していること。
- ③ 町税等を滞納していないこと。

●祝金の金額

第2子 5万円
第3子以降 10万円

●支給申請手続き

出産を証明する書類（戸籍謄本など）を添付のうえ、申請書の提出が必要です。

平成27年4月1日～9月30日までに生まれた子がいる世帯に、後日通知しますので、第2子以降の子であれば申請してください。

子育て応援商品券・多子出産祝金について 園町民課 子育て支援室 ☎ 0178 56 4259

地方創生先行型事業の検証結果

町では、少子高齢化などによる人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域社会を維持するため「おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を昨年10月に策定し、さまざまな施策に取り組んでいます。この度、「まち・ひと・しごと創生総合戦略会議検証部会」を開催し、平成27年度に国の交付金を活用して実施した地方創生先行型事業の検証作業を行いましたので、その結果を公表します。

おいらせ町 総合戦略 策定事業

事業概要 事業費：7,078千円

【総合戦略策定】

人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域を維持するために「町人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定した。

【空き屋調査・管理システム構築】

町内の空き家を調査し、危険空き家の対策と移住・定住に向けた利活用を推進するため空き家管理システムを構築した。

検証

事業実施でどのように人口減少に歯止めがかかるのか、雇用創出につながるのかという視点が不足している。評価できる成果目標を設定しなければ、改善に結びつかない。

空き家システムは、民間不動産事業者との連携による空き家バンク(※1)の創設を早期に推進するべき。

※1「空き家バンク」町内の空き家を有効活用するため、住宅の売却、賃貸などを希望する所有者から申込みを受けて登録した情報を、町内への定住などを目的として、その住宅の利用を希望する者に提供するシステム。

地域空き 店舗活用 支援事業

事業概要 事業費：7,529千円

【街なかサロン運営】

商店街の空き店舗を活用し、開業・起業への情報提供やお試し店舗スペース、町民のサークル活動などの拠点施設である街なかサロン「みんなの休憩所」を開設した。

【空き店舗活用支援】

空き店舗や空き事業所を活用して開業・起業する人を支援した。

検証

街なかサロン運営は、現状では投資効果に対する事業の継続性や将来性が低く、事業費全体のうち固定経費の割合が高く、精査する必要がある。

空き店舗活用支援は、評価の対象を相談や助成の「件数」だけでなく、経営状況などから「継続の可能性」を見極め、評価するべきである。

移住促進 事業

事業概要 事業費：15,026千円

町外からの移住・定住を促進するため転入して住宅を新築、購入する者や転入して合併浄化槽を整備する者に対し助成金を交付した。

この他、首都圏での移住フェアへ出展し、移住者向けパンフレットを作成して町をPRするとともに移住や仕事に係わる相談会を開催した。

検証

利用者の満足度の把握も含め、効果の測定方法に工夫、改善が必要である。広報周知の方法も一律的で、もっと地方創生の視点を加え、強化する必要がある。

若者世帯の移住・定住は、町内転居ではなく、町外からの移住にターゲットを絞った方が良い。

農業生産基盤 強化のための 機械購入 支援事業

事業概要 事業費：1,988千円

農家の米価下落等による収入減少に対応できるような生産コストを低減する直播栽培を推進し、農家の経営安定を図るため、直播栽培に要する機械購入を支援した。また、新たな特産品の開発及び生産拡大等の取り組みに必要な機械購入を支援した。

検証

農家の効率化、大規模化、集約化に非常に良い事業だと思われるが、補助した農家の機械導入前・後の売上・利益等の変化を追跡・調査し、自立性や将来性まで言及するとともに今後に生かすことが大切である。

もち小麦の販売は、いかに栽培農家を増やし、製造から販売までの体制を構築するかが課題である。

全体意見

- ①表面的な実績値だけでは、有効性、将来性の視点に立った効果を測定することができない。質的評価をどのように数値化するかがポイント。このことにより、成果目標の精度は向上するはず。
- ②事業目的の視点が従前の枠組みから脱しきれていない。事業の実施によりどのように人口減少に歯止めがかかるのか、雇用の創出につながるのかという視点を加えなければ、地方創生の成果目標は形式的なものになる。

【検証組織】 まち・ひと・しごと創生総合戦略会議検証部会（6名）

【検証方法】 事業概要や自己評価が記載された調書を基に担当者からの説明及び質疑応答を行い、成果目標の達成度などから有効性と将来性について検証しました。

※事業概要や検証結果を抜粋して掲載しております。詳細は町ホームページをご覧ください。

町民バス 拡充事業

事業概要 事業費：1,627 千円

通院者や通学者等の利便性向上のため、現在運行している町民バスの一部路線を実証試験を兼ねて拡充した。

【拡充路線】 南線：鍋久保→病院
東線：百石高校→三沢駅

検証

必要性は十分に理解するが、費用対効果が極めて低い。原因が、広報周知に問題があるのか、そもそも絶対数（ニーズ）が無いのか、精査して見極める必要がある。また、交通手段の選択、デマンドバス（※2）の運行など地域交通の専門家に意見を求めることも必要である。

※2 「デマンドバス」 利用者の要求に対応して運行する形態のバス。

百石高等学校 アクティブ ラーニング 支援事業

事業概要 事業費：2,127 千円

地元高校の学力向上や教育費の負担軽減による生徒の確保、将来の町を担う人材育成を図るためスキルアップ支援（検定料助成）や生徒が主体的・協働的に学び合う学習に使用するタブレットPCやプロジェクター購入費を助成した。

検証

学力向上、人材育成のほか高校のイメージアップなどに効果があり高校存続のためにも継続するべきである。

地場産米・ 酒の消費 PR推進事業

事業概要 事業費：831 千円

地元産米「まっしぐら」で造る日本酒「穂の泉」の製造を後押し、米の販売促進と農家と地元酒造業者の連携・商品開発による地域活性化のため、米とお酒のパッケージ商品化等に係る経費を助成した。

検証

事業立ち上げのPRに補助し、軌道に乗れば支援は不要と考える。
また、生産量が2tであれば、米の使用量も限定的であり、PR・ブランドの観点では良いが、基本目標であるしごとの創出には厳しい。PRに留まらず製造・販売の拡大に注力すべき。

多子出産 祝金事業

事業概要 事業費：5,500 千円

子どもの出産から子育てに係る負担を軽減し、安心して出産、育児できる環境を整えるため第2子以降の出産に対し祝金を交付した。

検証

少子化対策として必要性はあるが他の自治体を追った、一律的な交付と見受けられる。他市町村の支給基準等と比較して内容を再検討する必要がある。

また、第3子以降への支給額を維持又は引き上げるべきと考える。

③補助金の交付の目的は、最終的に団体や事業を自立させることにある。税金を投入した結果、将来性も含めてどのような効果が組織や地域にもたらされたのか、そのために効果的に使われたのかが重要。事業費イコール補助金の事業は、本来町でやるべきものを団体に丸投げしていることになる。補助金を受ける回数が多くなればなるほど、補助金が税金であることの意識が薄れる。

企画財政課 ☎0178-56-4273

特集

おいらせ軽トラ市と商店街活性化



百石本町商店街の現状とおいらせ軽トラ市

◆「おいらせ軽トラ市」とは？

おいらせ軽トラ市は、本町商店街中央町通りで開催される軽トラックの荷台を店舗に見立て、野菜・果物・魚介類・惣菜やオリジナル商品などを販売する産直市です。

平成26年7月に始めた「おいらせ軽トラ市」は当初、軽トラックを路上で展示販売するイベントと間違える人もいたほど、認知度の低いものでした。

今回の特集では、関係者からのお話のほか、本町商店街の現状や、おいらせ軽トラ市を始めた経緯、今後の展望などについて紹介します。

◆「百石本町商店街」

活性化の必要性

おいらせ軽トラ市が開催されている本町商店街は、百石地区の南に位置し、酒屋、青果店、金物店、飲食店などさまざまな店舗が立ち並んでいます。

しかし、近年、各地の商店街でも課題となっている店主の高齢化や後継者不足などの問題に、本町商店街も直面しています。この他にも、多くの要因でシャッターを下ろしてしまっただ店が数多くあり、一昔前に比べると空き店舗が目立ち、どこか寂しいような印象です。

◆商店街活性化に向けた町の取り組み

町では、国地方創生補助金を活用し、空き店舗の利活用を目的とした「おいらせ町空き店舗等活用支援事業」や商

店街の活性化に向けた取組みとして、おいらせ町商工会と連携し、「おいらせ町商店街活性化イベント事業」を行ってきました。

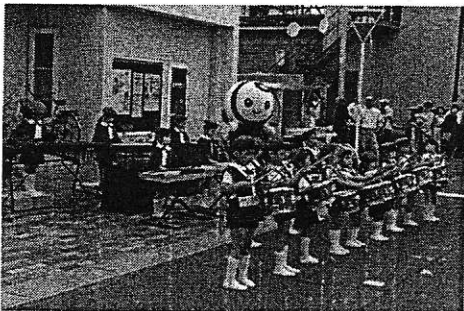
平成24～25年度には、おいらせ町商工会、県立百石高等学校、八戸工業大学と連携し商店街にある空き店舗や建物壁面にアートを施し、商店街のイメージアップと話題性の創出を図りました。また、平成26年度には、商店街、地域団体、地域住民、百石町漁業協同組合、十和田おいらせ農業協同組合、商工会、町の関係者でおいらせ軽トラ市実行委員会を立ち上げました。本町商店街でおいらせ軽トラ市を実施し、軽トラ市が開催されない冬季にはクリスマスリースやお正月用フラッグで商店街の街灯や店頭を装飾し商店街のイメージアップと賑わいの創出を図っているのです。



▲10/2 軽トラ市でのちんどん屋ねり歩きパフォーマンス



▲ 7/3 軽トラ市オープニングセレモニーでの川口保育園による演奏



▲ 7/3 軽トラ市オープニングセレモニーでのあゆみ保育園による演奏

平成25年7月に商店街活性化セミナーが青森市で開催され、その中の事例として「軽トラ市」、「100円商店街」、「バル街」などが紹介されました。

いずれも、その開催目的は商店街の賑わい創出（賑わいを再び）を目指してのことでした。このセミナー参加以前の24年11月に数名で岩手県雫石町「しずくいし軽トラ市」を視察し、25年8月に「おいらせ軽トラ市企画委員会」を組織しました。10月には山形県新庄市「新庄100円商店街」、11月には再度「しずくいし軽トラ市」、12月には三戸町「さんんのへ100円縁勝店街」の視察などを繰り返し、その都度、企画委

「おいらせ軽トラ市」開催までの道のり

員会を開催し、おいらせ町での開催に向けて準備を進めていきました。

そして、関係諸団体の多大なるご協力を得て、26年7月に「第1回おいらせ軽トラ市」の開催に至りました。



おいらせ町商工会
総括経営指導員 地代所 武彦 さん

おいらせ軽トラ市では、毎回、さまざまな趣向の体験や企画が行われており、来るたびに違った楽しみを味わうことができます。



人気のフリーマーケットコーナー



7/3 軽トラ市での百石町漁協によるカニ・魚の網はずし体験



7/3 軽トラ市でのせんべい汁先着お振舞い (川越せんべい店協力)



ひやくせんしょうてんがい
百縁笑店街参加店①「ユニーハヤシ」

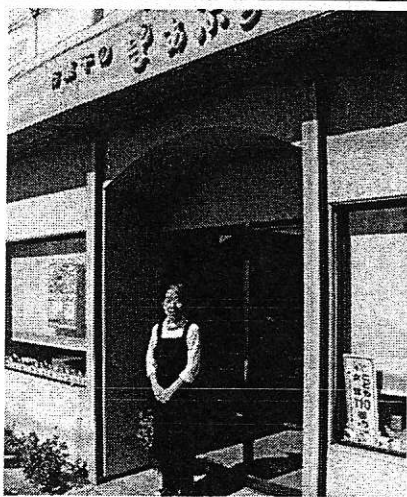
- 店名
「ユニーハヤシ」
 - 所在地
下明堂13-1
 - ☎ 0178-52-3148
- 食料品をはじめ、
日用生活雑貨などを
販売しています。

ユニーハヤシは、平成26年の初回から、百縁笑店街に参加させていただいています。本来は日曜定休ですが、軽トラ市の日は特別に開店しています。

百縁笑店街では、お惣菜、切り花、野菜などを、いつもより安い百円の価格で販売しています。

軽トラ市に来たついでに百石本町商店街にも足を運ぶ、というお客さんも少なからずおり、時には、新規のお客さんが店を覗くこともありました。

少しずつですが、百縁笑店街の効果を感じています。



ひやくせんしょうてんがい
百縁笑店街参加店②「お菓子のまあぶる」

- 店名
「お菓子のまあぶる」
 - 所在地
上明堂54-9
 - ☎ 0178-52-6624
- 和菓子から洋菓子まで、
さまざまなお菓子を
販売しています。

まあぶるは、初回から百縁笑店街と軽トラ市出店の両方に参加してきました。

百縁笑店街での販売品はケーキで、少し小さめにはしているものの、通常の半額以下である百円で販売しています。

軽トラ市の日には、やはり常連とは違ったお客さんが見えになります。店が軽トラ市の臨時駐車場（役場分庁舎）に近いため、立ち寄りやすいのかもしれない。

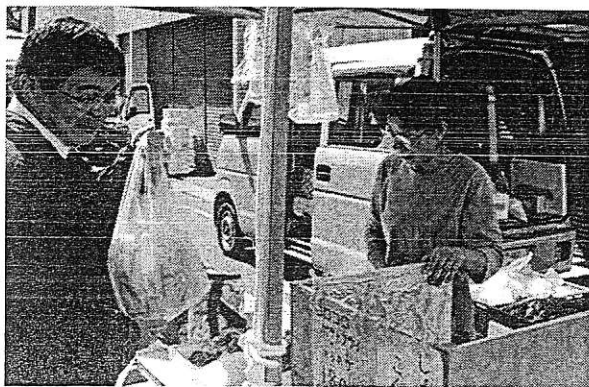
百縁笑店街への参加と、軽トラ市への出店が、それぞれ良い宣伝になっていると思います。

軽トラ市出店者②「ドラゴン・プー」

ドラゴン・プーは、南部町からの出店です。南部町のイベントや八戸の夕暮れ市など、年間を通じてさまざまなイベントに出店し、お惣菜販売を行っています。

軽トラ市には、おいらせ町の知人から誘われて店を出すようになりました。

毎回出店していると、いつも買いに来られるような、顔なじみのお客さんも増えてきました。これからも、おいらせ軽トラ市への出店を続けていきたいと考えています。よろしくお願ひします。



軽トラ市出店者①「若松美容室」

若松美容室は、軽トラ市会場のすぐ近くに店を構えている美容室です。食べ物以外の出店もあったほうが、来場客も楽しいだろうと考え、店の宣伝活動の一環として、毎回出店しています。

軽トラ市では、お店よりも安い価格で化粧品などを販売していますが、常連のお客さんがいつも顔を出してくれるので、以前よりお客さんとの距離が近くなったように思います。店と客のコミュニケーションの場としても、軽トラ市は良い機会ですね。



今後のおいらせ軽トラ市情報

第16回 11月6日(日)

会場：百石本町商店街

- 百石幼稚園児によるよさこいソーラン演技
- 豪華賞品が当たる「ガラポン」(1回50円)
- 赤そば無料試食会(150人限定)

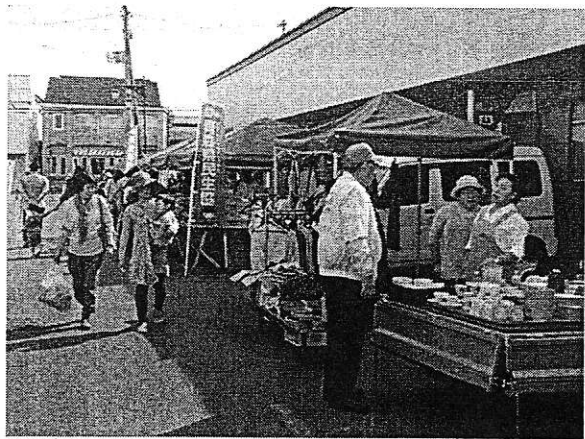
第17回 12月4日(日)

会場：百石本町商店街

- 豪華賞品が当たる「スタンプラリーカード大抽選会」を実施(スタンプ10個で1回抽選可能)

円おいらせ軽トラ市実行委員会

(おいらせ町商工会内) ☎0178-56-2511



恒例の「100縁笑店街」も同日開催!

百石本町地区の商店が、超目玉100円商品をはじめお買い得商品を取りそろえ、店舗にて販売します。参加店には目印ののぼり旗があります。軽トラ市のお買い物後は、ぜひ街を歩いてみませんか?詳しくはチラシ、ポスターをご覧ください。



おいらせ町商工会
会長 木村 雅行

「おいらせ軽トラ市」のそもそもの発案者は、町商工会・元事務局長の川口與四郎氏でした。全国初、岩手県栗石町の「元祖軽トラ市」と、山形県新庄市の「100円商店街」と夜の飲食店イベントの三つを合体させることで、他地域には無い、おいらせ町オリジナルの地域活性化を図りたい、という思いが出発点でした。

十和田のおいらせ農業協同組合と百石町漁業協同組合の賛同を得て、町内外から幅広く出店者を募りました。また、後にはフリーマーケットや無料休憩所(おいらせ街

中サロン)の開設をするなど、毎回工夫を凝らしたイベントを実施してきました。軽トラ市も3年目を迎え、入込客数などの面で、はつきりと良い変化が表れ始めています。

今後は、10月23日に北公民館で開催した、全国的にも珍しい軽トラ移動市の開催も定番化していきたいです。将来的には、他にあまり例の無い国道(45号)を歩行者天国にした軽トラ市の実施を視野に入れ、百縁笑店街を含め、さらなる内容の充実と規模拡大を目指し、積極的な展開をしていきたいと考えています。

街中にぎわいを創出すること。地元商店街をはじめ、地域経済にもう一度活力を取り戻すこと。簡単ではないかもしれませんが、継続していききたいと思えます。

先日、藤崎町商工会役員の皆様が見えられました。県内の全軽トラ市を集めた、サミットの開催も夢見ています。やがては北東北軽トラ市サミットにも繋げていきたいですね。

特集

高校生レストラン

Newly Opened!

「キッチンいちょうの森」

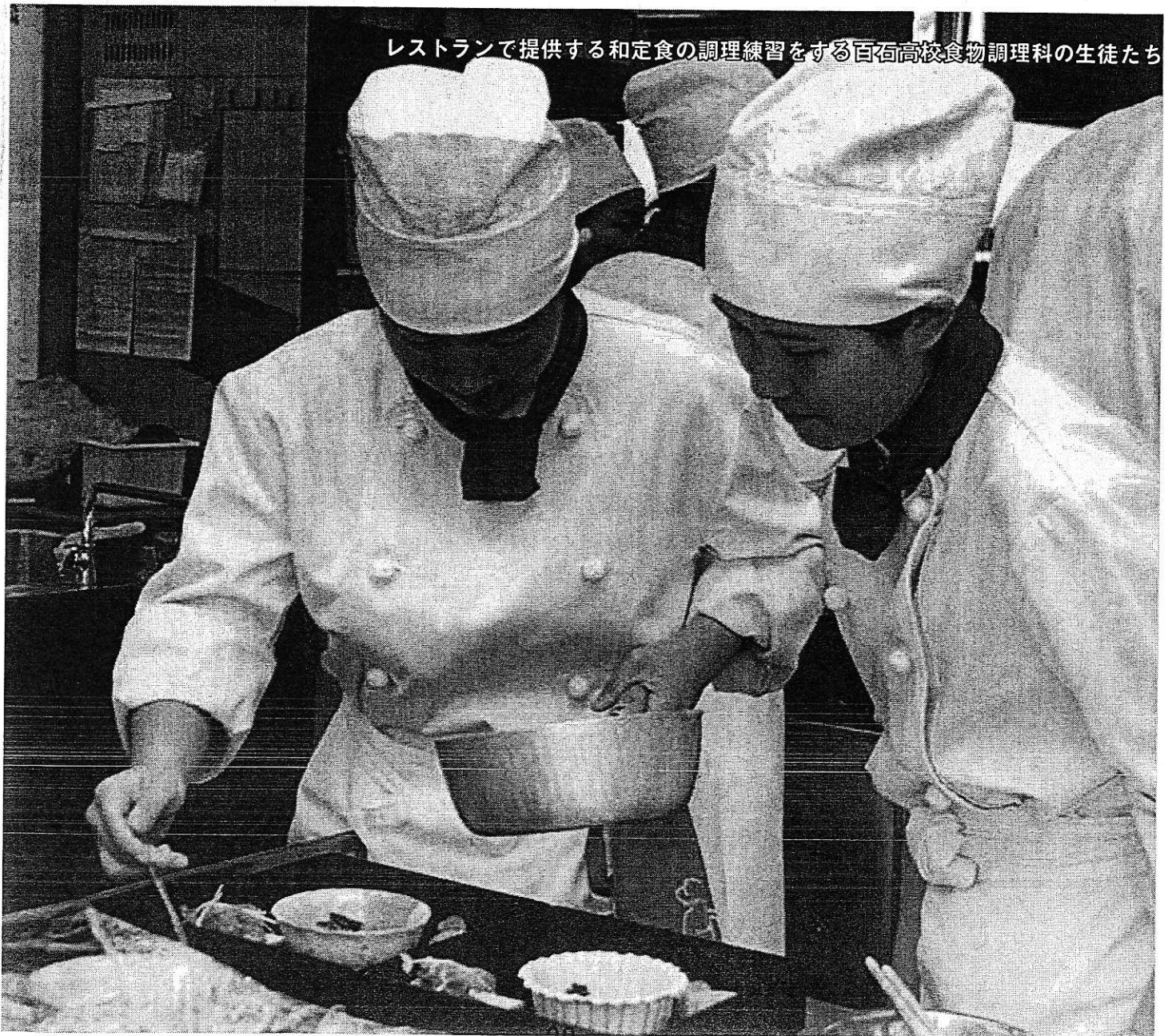


▲レストランがオープンする「おいらっせ交流館」

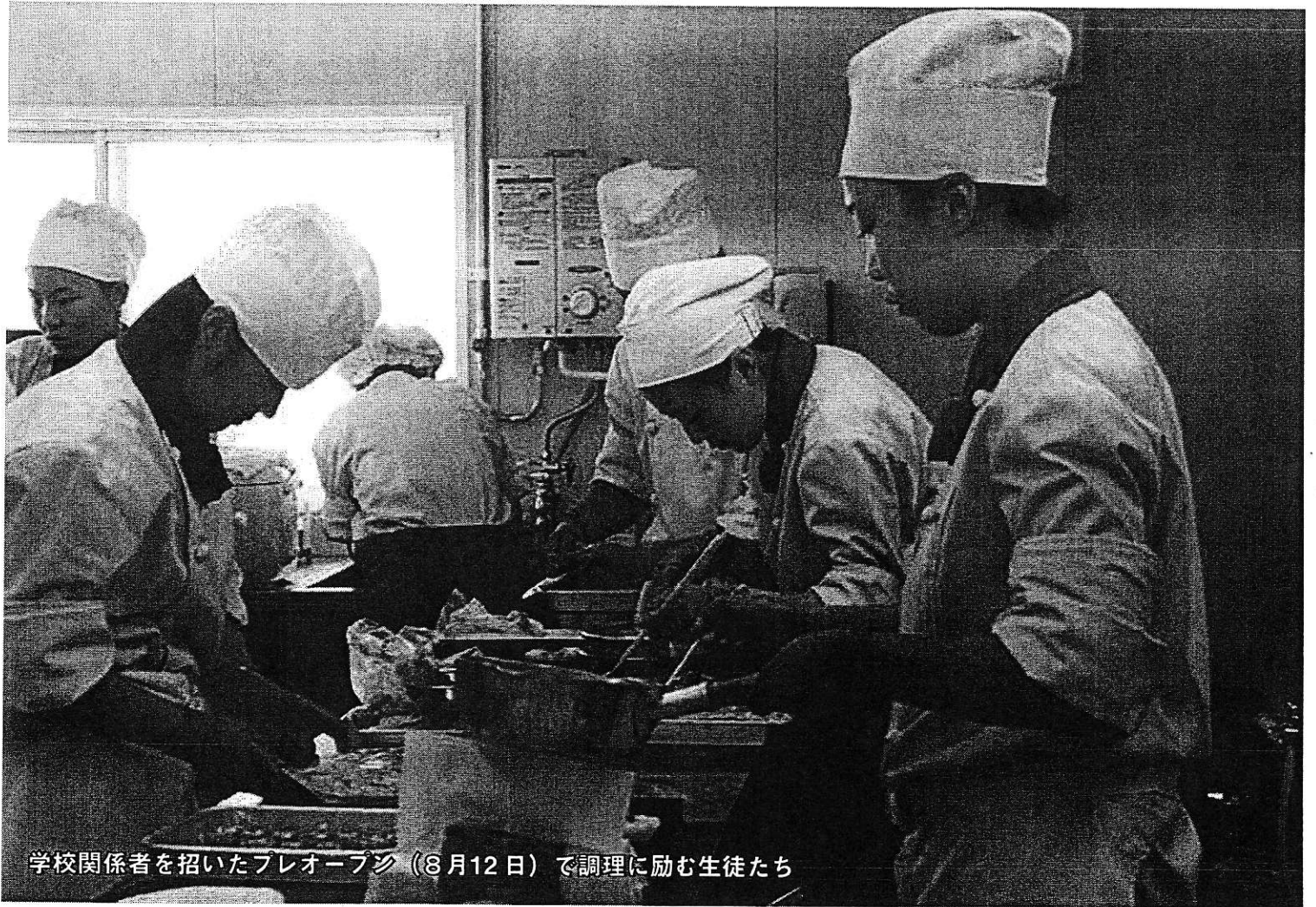
おいらせ町で、百石高校食物調理科の生徒たちによる高校生レストラン「キッチンいちょうの森」がオープンします。

青森県内の公立高校で唯一、食物調理科を有する百石高等学校。そこで身につけた知識や技術を活かす場として、酒蔵・桃川に隣接する「おいらっせ交流館」内で高校生レストランを開店します。(9月10日を第1回に、来年2月までに5回開店予定)

提供するメニューは和定食「結御膳(ゆいごぜん)」で価格は800円(税込)。生徒自身がメニュー企画から仕込み、調理、接客、食材管理までのレストラン運営を一貫して行います。



レストランで提供する和定食の調理練習をする百石高校食物調理科の生徒たち



学校関係者を招いたプレオープン（8月12日）で調理に励む生徒たち

県内初「高校生レストラン」実現までの道のり

「まごの店」の仕掛け人 岸川政之氏の後押し

全国初の高校生レストランと言われるのが、三重県多気町にある県立相可高等学校食物調理科による「まごの店」です。まごの店は平成14年に高校生の調理実習施設として小さな屋台から始まり、平成17年には多気町が約9千万円かけて高校生レストラン専用施設を建設しました。高校生による若さあふれる丁寧な接客とプロ顔負けの高い料理技術で人気を集め、この取り組みはドラマや本になりました。

まごの店の影響もあり、「百石高校でも高校生レストランを！」という声は、これまでも幾度か上がっていました。しかし、実施する施設、食品衛生法上の許可、金銭を扱う経営責任などのさまざまな問題をクリアしなければならず、具体化には至りませんでした。

そんな中、転機が訪れます。百石高校の荒川校長が出張の際に、「三重県立相可高校の高校生レストラン『まごの店』の仕掛人である岸川政之さんが青森に来る」という話を聞きつけ、なんとかおいらせ町へも立ち寄ってもらえるように働きかけました。これに岸川氏は快く承諾してくださり、今年2月、岸川氏と百石高校に加え、町、商工会、おいらせブランド推進協議会など関係者による意見交換会の実施に至

りました。

この時、初めて百石高校と町関係者は公の場で意見を交わしました。岸川氏から「高校生レストランは生徒たちの学びの場。第一目的はまちづくりのためでも、地域経済のためでもない、高校生の成長のため」とのアドバイスを受け、これまでバラバラだった意識が一つの方向に向かい始めました。

地域の人々に支援され、 高校生レストランが始動

今年5月にも岸川氏はおいらせ町を訪れ、百石高校生に対して「まごの店」の取り組みについて講演し、生徒との意見交換も行いました。生徒たちほとても意欲的な姿勢を見せ、岸川氏は「先生も生徒もやる気になっている、町も全力で応援している、必ずいい方向へ向かう」と語りました。

ここから高校生レストラン実現に向けた動きが加速していきます。多くの方々からの協力を得て、施設や衛生面のほか運営上の課題を解決。

長い時を経て、総合観光農園アグリ
の里おいらせが酒蔵・桃川の一部施設を活用して運営する「おいらせ交流館」での高校生レストランがスタートすることとなったのです。

開業の裏側に高校生の努力あり

高校生レストラン開業に向けて、百石高校食物調理科の生徒たちは、さまざまな準備と対策を行ってきました。

日々の調理技術の練習では、実際にレストランでお客様に料理を出すことを意識した訓練を行うようになりました。出汁巻き卵の練習のため、最初はタオルを開く練習から始め、均一な質の出汁巻き卵を焼けるように何度も繰り返しました。さらに、八戸市の「古今料理・花乃」の尾崎

賢一氏を講師に招いて仕込みから調理、盛り付けまでを細かく指導してもらい、実践的な調理技術を学びました。また、接客の面では、レストラン「カワヨグリーンロッヂ」へ実習に出向き、実際にお客様を相手にして、オーダーの取り方や配膳の仕方、言葉遣いなどを学びました。

こうした高校生たちの努力を経て、いよいよ高校生レストラン「キッチンいちようの森」は大きな一歩を踏み出そうとしているのです。



- ① 胡瓜と蟹かまの砵巻き～梅肉のジュレ添え～
- ② もち小麦のすいとん
- ③ 季節の野菜の炊き合わせ
- ④ だし巻き卵
- ⑤ 鶏肉の八幡巻
- ⑥ 旬魚の南蛮漬け
- ⑦ 長芋と茸の炊き込みご飯
- ⑧ 長芋の浅漬け
- ⑨ ふるさとムース オレンジと長芋を二層にして～レモンのクラッシュゼリー添え～

高校生たちを指導する先生がたの声

百石高校食物調理科 主任

大和 達子 先生

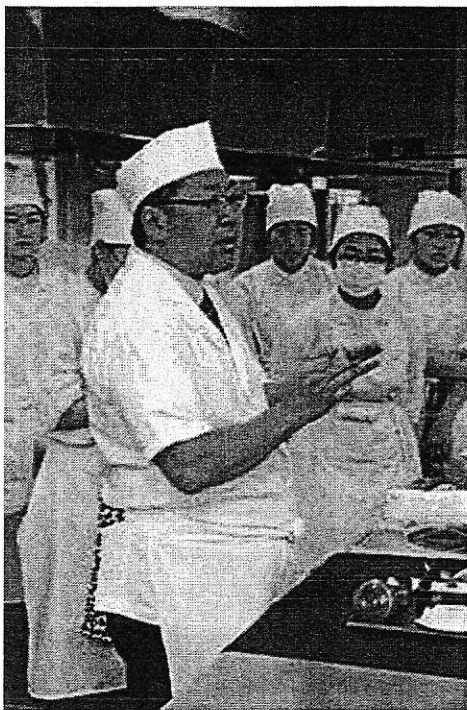
いよいよ高校生レストランがオープンします。地域の皆さんには多方面にわたりご支援をいただきありがとうございます。生徒たちは、夢のオープンに向け、調理はもちろんサーブにも力を入れ、日々練習を重ねてきました。レストランでは、おもてなしの心と感謝の気持ちを皆さんに伝えられるよう頑張りたいと思いますので、今後ともよろしく願います。



百石高校食物調理科 講師

浅野 裕樹 先生

今回の高校生レストランを実施することで、生徒には調理技術の向上も大切なことですが、これまでに応援してくださった方々に感謝し、そしておもてなしの心を大切にしながら料理を作り、調理人にならぬ態度や礼儀を身につけて欲しいと考えています。また、調理の練習などを通して失敗することを恐れずに、何事にも積極的に挑戦していく力も伸ばしていただきたいと思います。



▲生徒たちに結御膳の調理などを指導する「古今料理・花乃」の尾崎賢一氏。尾崎氏は「料理は相手がいなければできないもの、相手がいることを常に意識して、優しさを込めて作って欲しい」と生徒たちに語ります。

高校生レストランに向けた生徒たちの決意

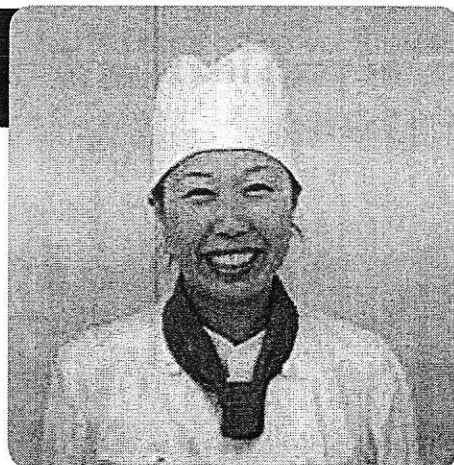
みやさと じゅりな

宮里 純利菜さん (18歳)

百石高校食物調理科 3年生 / 得意料理：オムライス

私は小さいときから料理が大好きで、中学生の頃には百石高校の食物調理科へ入ると決めていました。食物調理科に入ってから、それまで意識していなかったお菓子作りの楽しさにも気づきました。卒業後はホテルに就職してお客様サービスを学びつつ、いずれは自分のカフェをもつことが夢です。

早く高校生レストランの場でお客様に自分の料理を食べていただき、感想を聞いてみたいと思っています。お客様を相手にするので、衛生面に細心の注意を払いつつ、絶対においしいと胸を張って言えるような料理を提供できるように頑張りたいです。



なかつか みうみ

中塚 美海さん (16歳)

百石高校食物調理科 2年生 / 得意料理：オムライス

私は料理上手なお婆ちゃんに憧れて料理の道を選びました。食物調理科では、「食物調理検定」という実技検定を定期的に受けなければならず、定期テスト以上にその対策は大変ですが、その分、充実した設備と指導者のもとで料理を学ぶことができます。

高校生レストランでは、早くお客さんに自分たちの料理を食べてほしいと思っていますが、まだ3年生の先輩方に頼っている部分も大きいです。2年生である私たちも、調理をしながらお店全体を常に見渡して、常に自分自身で考えて動き、スムーズな運営ができるように工夫を重ねていきたいです。



かわむら しほ

川村 志帆さん (18歳)

百石高校食物調理科 3年生 / 得意料理：鶏唐揚げ

私が百石高校食物調理科へ入ろうと思ったきっかけは、広報おいらせでした。広報で百石高校食物調理科の特集（広報おいらせ2010年12月号）を読み、先輩たちの姿に強く憧れをもちました。

食物調理科ではさまざまな実技の検定があり、その対策と練習は大変ですが、その分、合格したときの喜びは大きいです。また、それらは自分自身の技術となって確実に返ってきます。

高校生レストランがいよいよ始まりますが、ここまで来たらやるしかありません。お店では臨機応変に動くことを意識して、3年生として後輩たちをフォローしながらお客様を迎えたいです。



すとう ひな

須藤 仁渚さん (16歳)

百石高校食物調理科 1年生 / 得意料理：^{きぬた}砵巻き

食物調理科では、先輩たちが調理実習で作った料理が、不定期で給食として出されます。とてもおいしい料理ばかりで、私もそんな料理が作れるようになりたいです。

高校生レストランが始まることには、期待も不安も両方ありますが、ここまで来たらやるしかないと思っています。レストラン内では主に調理場とホールの中継を担いますが、お客様とも積極的に関わっていききたいです。

レストランで提供する私たちの「結御膳（ゆいごぜん）」は、とてもおいしいので、たくさんの人に食べに来てほしいと思います。



高校生を支援する大人たちからのメッセージ



～高校生の接客実習を受け入れ～

カワヨグリーンロッヂ・ホール担当 たて だいすけ **館 大介** 氏

百石高校とカワヨグリーンロッヂとのお付き合いは古く、実習受入は20年以上続いております。今年はいつもの調理実習のほか、6月～7月の週末にホールでの接客も体験してもらいました。高校生レストラン開業を見据えて「接客の経験が無い生徒たちに現場で体験をさせたい」という高校側の思いに応えたものです。

はじめは緊張していた生徒たちも徐々に慣れていき、なかにはお客様の質問によどみなく答える生徒もいて驚きました。当然、覚えるのがゆっくりな生徒もいましたが、お客様をもてなそうと一生懸命な姿勢は同じでした。

生徒たちには、「キッチンいちょうの森」へ足を運んできたお客様ひとりひとりを大切にする気持ちを忘れずに、失敗を恐れずチャレンジしてほしいと思います。

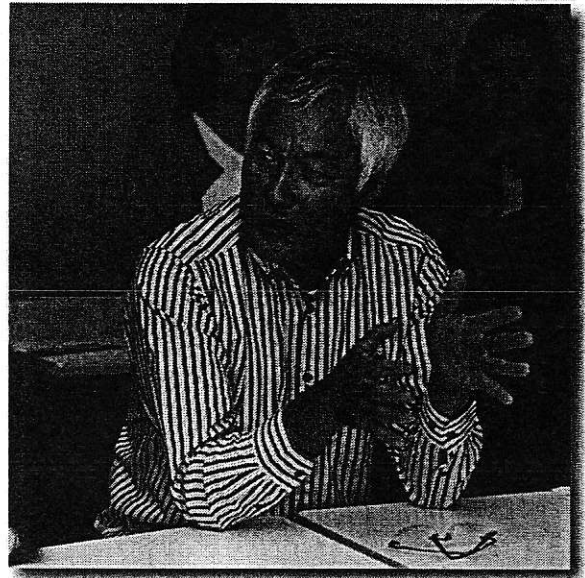
～おいらっせ交流館を運営～

(株)アグリ^{とまべち よしゆき}の里おいらせ・取締役 **苦米地 義之** 氏

高校生レストランがオープンする「おいらっせ交流館」は、元々は障がい者の施設外就労支援を行うためにオープンしました。主にソバを提供するカフェとして運営し、今後は特産品やパンなどの販売も充実させていく予定です。元々は平日のみの開館を考えていたのですが、高校側から「おいらっせ交流館で高校生レストランを実施したい」という申し出を受けて、喜んで協力させていただきました。

今の教育現場では応用力を身につける機会が少ないと感じますが、本来、若者の吸収力は物凄い。高校生レストランを通じて「自ら考えて動く力」を身につけて欲しいです。

ゆくゆくは生徒自らが食材の調達を行ったり、季節に応じた品目の提案をするなど、生徒ひとりひとりの創意工夫が輝く展開を期待しています。



～高校生レストラン「まごの店」の仕掛け人～

皇學館大学 現代日本社会学部・教授 きしかわ まさゆき **岸川 政之** 氏
百五銀行 地域創生部・顧問

私が初めておいらせ町を訪れたのは、今年2月のことでした。そこで私は、わが町の相可高校が運営する高校生レストランを例に出し、地域全体で応援団としてサポートしている姿を語りました。5月には百石高校を訪問し、生徒たちと直接話す機会があり、やる気に燃える生徒、指導する素晴らしい先生、そして行政をはじめとする周りの期待と理解を感じワクワクする気持ちになったのを覚えています。

また、7月に中泊町をはじめ4市町を訪れた時、百石高校の取り組みを取り上げた東奥日報の記事を見せていただきました。記事の内容がとても暖かく、記者の強い期待と生徒に対するとても暖かい思いが読み取れ胸が熱くなりました。これからも多くの方の応援を受け、素晴らしいステージが用意されていくことでしょう。そして、みんなで未来の大人たちを応援していきましょう！



高校生レストラン、町も全面的に支援

町としての関わりは、昨年12月に百石高校から「町と高校で連携・協力して、高校生レストランの実現可能性について考えてみたい」と相談を受けたことが始まりでした。そこで、百石高校と町が共同で、三重県多気町において全国初の高校生レストランを仕掛けたキーパーソンである岸川氏を町にお招きしたのです。

岸川氏のアドバイスを聞き、百石高校の生徒と先生方の熱意を目的にすることで、地元の県立高校に通う生徒の教育の充実のため、また、地域の活性化のためにも、町としてどんな支援・協力ができる

か検討してきました。

桃川株式会社の見学施設を改装してオープンした、「おいらっせ交流館」を高校生レストランとして活用させていただけることとなり、町では施設の改装費用の一部や、高校生の調理練習のための食材費、消耗品費などを補助しております。

地元で頑張る高校生のため、町をあげて高校生レストラン「キッチンいちょうの森」を応援していきます。まずは一度、「キッチンいちょうの森」へ足を運び、その味を確かめてください。その料理は必ずあなたを満足させます。

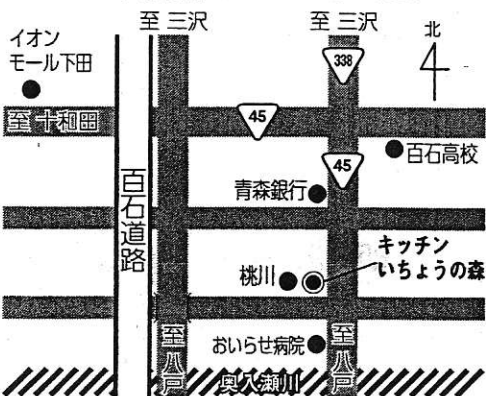


▲同じ味を出せるように練習を重ねる生徒たち。

※高校生レストランは生徒たちの研修の場です。生徒ができる範囲での運営となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

高校生レストラン 「キッチンいちょうの森」

- 初回オープン
9月10日Ⓟ ※月に1回営業予定
- 営業時間
11時30分～14時00分
(ラストオーダー13時30分、限定50食)
※当日9時30分より整理券を配布します。
※整理券は50人に達しましたら配布を終了します。11時30分前でも食券を購入できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- 提供メニュー
結御膳(ゆいごぜん) 800円(税込)
- 平成28年度の開店予定日
9月10日Ⓟ、10月29日Ⓟ、11月12日Ⓟ、
1月28日Ⓟ、2月4日Ⓟ(計5回予定)
- 場所
おいらっせ交流館(おいらせ町上明堂113-1)



青森県立百石高等学校
☎0178-52-2088(9時～16時)

※おいらっせ交流館へのお問い合わせはご遠慮ください。



高校生レストランは本校の長年の夢でした。もう一歩踏み出せなかった私たちが、「いよいよやる決心」をしたのは、生徒の思いが熟したことから、地域の皆さんから「高校生のために協力するよ」と応援していただいたからです。

新聞に記事が掲載されると「楽しみにしています。頑張ってください。」「野菜を(鮭を)提供しますよ。」など、温かい言葉を沢山いただいています。これからは「地域とともにある学校」を目指します。よろしく願います。

青森県立百石高等学校

校長 荒川由美子